

大正六年九月一日發行

金澤醫學  
專門學校  
十全會雜誌

卷二十二第

號九第

(號十四百第)

金澤醫學專門學校十全會

金澤醫學專門學校 **十全會雜誌** 第二十二卷第九號 **目次**

○原 著

○肺結核患者血液ノ含糖量ニ就テ……………武田正壽……………一

○ジベール氏薔薇色粧糠疹ニ就テ……………布施宗一……………三

○實 驗

○稀有ナル割腹未遂ノ一例……………山村鏐二……………三〇

○抄 録

醫 化 學……………四件……………三	病 理 學……………三件……………三	細 菌 學……………四件……………三	眼 科 學……………一件……………四	皮膚科及泌尿器科學……………七件……………四	婦人科及產科學……………五件……………四
--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	------------------------	----------------------

○雜 報

●死屍死胎解剖並保存ニ關スル取締規則。●石川縣醫師分布狀態。●

第九師管軍醫分團總會。●衛生會總會。●石川縣學校醫會。●北越北陸聯合醫學會。●養護法講習。●金澤皮膚科集談會第十八回例會。●雪

○會 報

●立山登山。●准特別會員。……………五

○通 信

●石原巖氏。……………五

○叙任及辞令

●宮内省。●賞勳局。●陸軍省。●石川縣。……………五

○人 事

●村上庄太氏。●布施宗一氏。●鈴木外男氏。●太田泰造氏。●本郷啓氏。●毛利久五郎氏。●野澤寛二氏。●土肥秀太郎氏。●中橋賢藏氏。●岡島俊一氏。●河合眞治氏。●磯野誠道氏。……………六

○會 告

●大正五年度十全會費收支決算報告。●大正五年度金澤醫學專門學校十全會收入決算表。●大正五年度金澤醫學專門學校十全會支出決算表。●大正五年度金澤醫學專門學校十全會臨時費支出決算表。●大正五年度十全會校外特別會員會費收支決算報告。●大正五年度金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費收入決算表。●大正五年度金澤醫學專門學校十全會校外特別會員會費支出決算表。……………三

以テ切ツテ捨テントシタルモ、已ニ手元暇ヒテ切り放ツテ得ズ却テ圓滑ナル腸管ハ内ヨリ滑脱シ再ヒ握リ直シテ切り放タントシテ又脱出シ之レヲ再三反覆シ遂ニ七尺七寸モ切り落シタルモノナルベシ。  
尙本手術ニ際シ隣醫若山浩氏ノ援助ヲ謝ス。

## 抄 錄

### 醫 化 學

#### ○孵化鶏卵ノ含炭素代謝ニ就テ

##### 附 脂肪ノ糖化問題

(東京醫學會雜誌第三十卷第十三號)

櫻 木 清 平

著者ハ脂肪ノ糖化ヲウ物質代謝上重要ナル事實ガ、植物界ニ於テ油實ノ發芽ニ際シ、確實ニ證明セラレアルニ興味ヲ感ジ、動物界ニ於テ之ニ最モ近似セル孵化鶏卵中ニ於ケル脂肪ト含炭素トノ關係ヲ知ラント欲シ、種々ノ孵化期ニ於ケル糖原、遊離還元物質、復合及總還元物質並ニ脂肪及窒素量ヲ測定シ、左ノ觀察ヲ下セリ。

一、從來ニ於ケル孵化鶏卵代謝ノ研究者ハ、偏ニ勢力代謝上單ニ脂肪ノミニ着眼シ、糖ヲ全ク閑却シタルハ

誤レリ。著者ノ實驗ニ依レバ、脂肪ガ鶏卵ノ實質上勢力貯蓄体トシテ大部分ヲナスモノナルコトハ勿論ナレト、孵化ノ初期ニアリテハ既存葡萄糖ガ勢力代謝ニ際シ、特ニ重要ナル意義ヲ有シ、孵化初期ノ化學變化ハ主トシテ糖ノ分解ニアリ。即孵化ノ初期ニ存スル遊離還元物質(約四%)ハ時ト共ニ其量ヲ減ジ、孵化ノ第九日目ニ至リテ最小値(約一%)ヲ示スニ至ルニモ拘ラズ脂肪量ニ何等ノ變化ヲ認メザルト、Bohr & Hasselbach氏等ガ孵化第五日目ニ行ヒシ呼吸係數( $\frac{CO_2}{O_2}$ )ガ〇・八九〇ヲ示スニ觀レバ、之レ明カニ脂肪ノミガ燃燒ニ與ルニ非ズシテ、必ズヤ含炭素ノ燃燒ヲ意味セズンバアラズ。

二、之ニ反シ孵化後半期ニ於テハ脂肪ハ唯一ノ勢力資源トシテ消費セラル。即孵化以前存在セシ約十一%ノ脂肪ハ孵化期ノ進ムニ從ヒテ漸次其量ヲ減ジ、孵化ノ末期ニ至リテハ遂ニ約半量ニ低減ス。而シテ第九日以後孵化卵ハ葡萄糖ニ非ザル含炭素ハ既ニ欠乏セルニモ拘ラズ、葡萄糖ハ、寧ロ胎兒ノ増大ニ伴フテ増加ス。且ツ著者ハ孵化後半期ト雖モ生活細胞ガ葡萄糖ノ供給ヲ受クルコトナシニ發育シ得ルコトハ頗ル疑フベシトナシ、力源トシテ脂肪ノ酸化セラルルニハ、一旦葡萄糖

トナリ、胎兒發育ニ伴フテ益々増大スル物質欠損ヲ補足スルモノト推斷セリ。而シテ此斷案ニ對シテハ何等抵觸スルコナキノミナラズ、最初ヨリ存在セル葡萄糖分解ノ意義ヲモ亦ヨク説明スルヲ得。何トナレバ之レヲ從來ニ於ケル諸家ノ實驗ニ徴スルニ、脂肪ノ糖化器官ハ肝臟ト見做サレタルガ故ニ、此器官ノ發育スル迄ハ脂肪ノ酸化不可能ナレバナリ。

三、尙ホ蛋白質ハ勢力代謝ニ對シテハ全ク關與セザルモノノ如ク、其全部ガ鶏卵ノ體構成ニ預ルモノニシテ、只其一小部分ノミガ蛋白質以外ノ含窒素有機成分ニ移行スルモノト信ズト。(醫化學教室竹內抄)

### ○種々ナル「水素イオン」ヲ以テスル

滲漏・滲出液鑑別ニ就キテ

(東京醫學會雜誌第十一卷第十四號)

### 比 留 間 惠 三

著者ハ滲出液ト滲漏液トニ共通セザル一種ノ蛋白ヲ推定シ、該蛋白ハ幾何濃度ヲ有スル「水素イオン」ニヨリテ最も多量ノ沈澱ヲ生ズ可キカ、又此ノ沈澱物ガ滲漏・滲出兩液ノ鑑別ニ向テ何等カノ意ヲ有スルカラ、磷酸混合液・醋酸曹達混合液ヲ用ヒテ試験シタルニ次ノ結果ヲ得タリ。

一、滲出液(胸膜及腹膜)ハ醋酸混合液及磷酸混合液ニヨリテ沈降スル蛋白質ヲ有シ、滲漏液ニアリテハ全ク之レヲ欠ク。

二、滲出液中ニ存スル此蛋白質ノ等荷電点ハ醋酸混合液ヲ用ヒタル場合ニ於テハ、 $[H^+] = 0.36 \cdot 10^{-4}$ ニシテ磷酸混合液ニアリテハ $[H^+] = 0.214 \cdot 10^{-4}$ ナリ。

三、炎症性脊髄液モ亦胸膜炎及腹膜炎滲出液中ニ存スル蛋白質ト同種ノ蛋白質ヲ有シ、醋酸混合液ヲ用キタル場合ニ於ケル等荷電点 $[H^+] = 0.36 \cdot 10^{-4}$ ニシテ滲出液ノ場合ニ一致ス。

### ○沈澱反應ニ於ケル沈澱元ト沈澱トノ化學的差異

(京都醫學會雜誌第十四卷第五號)

### 田 口 勝 太

沈澱元ト沈澱トノ間ニ於ケル化學的關係ヲ知ランガ爲メ著者ハ沈澱元トシテ「カゼイン」ヲ撰用シ、之ニヨリテ得タル特異血清ヲ用キテ「カゼイン」溶液ヲ沈澱セシメ、「カゼイン」及沈澱物質間ニ於ケル燐量ヲ比較研究シ、次ノ結果ヲ得タリ。

沈澱元トシテ用キタル「カゼイン」ノ含燐量ハ $0.952$

%ニシテ、「カゼイン」溶液ヲ免疫血清ヲ以テ沈澱セシメテ得タル物質ノ含燐量ハ〇・〇五一%ナリ。即チ此沈澱反應ヲ假ニ免疫血清中ニ存スル沈澱素ト「カゼイン」トノ混合ニヨリ化生セルモノトスレバ、之等ノ各作用物質ノ比ハ一對一八・一ナリ。

尙著者ハ以上ノ反應ノ膠質化學ニ緣由スベキヲ想像シ、沈澱元ト免疫血清ノ濃度トヲ變ズルコトニヨリ、沈澱物ノ化學的組織ニ何等カノ影響アル可キヲ説ケリ。

(以上二件、醫化學教室井上抄)

#### ○マツチュー、レーモン氏胃内殘存物定量

法ノ不備ヲ論ジ併テ余ノ一新法ニ及ブ

(日本消化機病學會雜誌第十六卷第三第四號)

醫學士 矢尾板誠策

著者ハ先ヅ胃ノ運動機能並ニ分泌機能ノ消長ヲ檢スル方法トシテ、從來賞用セラレツツアルマツチュー、レーモン氏胃内殘留物測定法ヲ批判シ、尋デ著者ノ變法ヲ詳述セリ。即チマ氏法ニヨレバ胃液酸度ノ部分的差異ガ測定結果ニ影響アル事、酸度高ク且ツ多量ノ胃内容ヲ採集シ得ル場合ノ外應用シ得ザル事等ヲ指摘セリ。著者ハ標指藥トシテ一定濃度ノ「クレアチニン溶液(〇・二三%)」ノ一定量ヲ胃中ニ送入シ、尋テ其内容ヲ抽出シ、「クレアチニン

溶液ノ稀釋度ヨリ胃内容ノ總量ヲ算定セリ。實驗結果ノ算法ハマ氏法ニ準ズルモ、此法ニ於テハ標指藥(胃酸)ヲ含有スル胃内容量ガ未知ニシテ、之ヲ稀釋スルニ用ヒタル液体(水)ノ量既知ナルニ反シ、著者ノ法ハ標指藥(クレアチニン)ヲ含有スル液ノ量既知ニシテ稀釋セラルル胃内容量ガ未知ナル故、計算上幾分ノ相違アリ。即チ胃内容ノ總量ヲ $x$ トシ、注入シタル「クレアチニン溶液」ノ濃度ヲ $a$ 、「クレアチニン」ノ稀釋後ニ於ケル濃度ヲ $a'$ ノト置ケバ次式ヲ得。

$$\frac{q}{x+q} = \frac{a'}{a} \dots \therefore x = \frac{a}{b(p-a)}$$

且ツ比色法ニ於ケル「クレアチニン」液柱ノ高サヲ $a$ トシ稀釋後ノ高サヲ $a'$ トスレバ次式ニ依リテ $x$ ノ値ヲ求ムル事ヲ得。

$$x = \frac{\left(\frac{1}{a} - \frac{1}{a'}\right)}{\frac{1}{a'}}$$

著者ハ此法ヲ以テマ氏法ニ優ルコトヲ揚言セリ。

(醫化學教室今井抄)

## 病 理 學

○日本住血吸蟲ノ皮膚侵入ニ就テ並ニ  
日本住血吸蟲病ノ先天性免疫ニ關ス  
ル知見補遺

(京都醫學雜誌第十四卷第五號)

京都醫科大學病理學教室

醫學博士 藤 浪 鑑

末 安 吉 雄

著者ハ『住血吸蟲ガ宿主動物皮膚ニ侵入スルニハ特殊ナル皮膚ノ性質ヲ以テ其ノ必要條件トスルヤ』及ビ『免疫動物ニ於テハ皮膚侵入ノ行ハレザルニヤ若クハ免疫動物体内ニ於ケル「セルカリヤ」ノ運命如何』ノ疑問ニ就イテ種々ノ實驗ヲ行ヒテ。日本住血吸蟲「セルカリヤ」ノ皮膚侵入ハ敢テ複雑ナル要約ヲ必要トセズ至テ容易ニ出來ルモノナリ、皮膚ノ溫度皮脂腺、汗腺ノ分泌皮膚ノ血液循環ハ侵入ヲ促ス必要條件ニアラズ水中ニ於テ生活無キ動物皮膚片ニモ容易ニ侵入シ得ルナリ先天性免疫動物(家鷄、蛙)ニ於テモ其ノ皮膚ニハ能ク「セルカリヤ」侵入シ得ルナリ。

故ニ免疫動物(今ハ先天性免疫ニ就テ謂フ)ト云フハ病原

蟲侵入ノ不可能ナルニ因ルニ非ズシテ一旦侵入シタル病原蟲ガ常住地ニ達シ成熟蟲トシテ生存スルノ不可能ヲ意味スルナリ、サレバ侵入病原蟲即チ「セルカリヤ」ハ皮膚侵入後身体内ニテ癢滅ニ歸スルモノナラザル可カラズ。此際最モ注意ス可キ重要ナル變化ヲ示スハ侵入部ノ皮膚組織ナリ著者等ガ精檢シタル家鷄皮膚ハ「セルカリヤ」侵入ニ由來シテ炎症細胞浸潤及増殖ヲ呈シ又血行障害ヲモ示セリ。

然シテ此變化ト相關聯シテ多數侵入体ノ癢滅ヲ明ニ檢出スルヲ得タリ、サレバ此皮膚ハ侵入蟲体ノ癢滅ノ主ニ行ハルル處ナリト謂フ可シ、但侵入蟲ノ全者ガ必ズ常ニ此處ノミニテ癢滅スルニ限ルト云フニハ非ズ其血行ニヨリテ内部臓器ニ迄(例之、肺)進達スルモノアルコト亦可能ナリト結ベリ。(病理學教室松田抄)

○横川氏「メタゴニムス」「チエルカリヤ」並ニ其被包囊チエルカリヤ」ノ  
生物學的研究

(京都醫學雜誌第十四卷第五號)

愛知醫學士 武 藤 昌 知

著者ハ横川氏「メタゴニムス」ノ第一中間宿主ノ決定ト共

ニ種々ノ試驗ヲナシ、其第一中間宿主ヲ出デタル「チエルカリヤ」ハ清水及人工胃液及一%ノ重曹水中ニテハ僅カニ一分乃至數時間生活シ得ルノミニシテ其第一中間宿主ヲ出デタル直後ニ於テハ終末宿主タル哺乳動物体内ニ於テ成蟲トナリ得ザルモノナルコトヲ確言シ。其第二中間宿主タル幼金魚ニ侵入寄生ノ狀況及其包囊形成ニ就テ曰ク本「メタゴニムス」「チエルカリヤ」ハ体表面ヨリ組織内ニ穿入寄生スルモノニシテ組織内ニ入ルヤ一定所ニ至リテ其部ニ於テ廻旋運動ヲ營ミ逐次包囊ヲ形成シ、其形成セル包囊ハ寄生部位ノ組織ノ抵抗ノ強弱ニヨリテ圓形時ニ長橢圓形又ハ橢圓形ヲ呈スト。其包囊モ日ヲ經ルニ從ヒ一定度迄其厚徑ヲ増シ、其被包囊「チエルカリヤ」自己ニ於テモ十二三日乃至十四五日ニ至レバ眼点消失シ、又排泄囊ハ寄生後六七日ニシテ現ハレ、而シテ其内ノ顆粒狀物モ増加シ、二十日乃至二十五六日ニ至レバ全ク發育スト。尙著者ハ幼金魚ニ寄生セル「チエルカリヤ」ヲ以テ哺乳動物ニ飼養試驗ヲ行ヒシ結果寄生後二十日目以後ノモノニ於テ成績陽性ナリシト。

故ニ著者ハ論ジテ曰ク、横川氏「メタゴニムス」ノ哺乳動物寄生ニハ第二中間宿主ニ入りテ少ナクモ二十日以上ノ日數ヲ經タルモノヲ經口的ニ攝取スルヲ要スルモノニシ

テ只ニ單純ナル耐久性ヲ保タンガ爲メノミニ第二中間宿主ヲ必要トスルノミニアラザルベシト。尙以上ノ成績ヨリシテ第一中間宿主ヨリ出デタル「チエルカリヤ」ノ飲用水ヲ介シテ來リ成蟲トナルコトハ決シテ無ク、又第二中間宿主ヨリ發育セル被包囊「チエルカリヤ」ノ脫離シテ水中ニ入り之ガ飲用ニ依リ哺乳動物体内ニ感染寄生スル場合アリトスルモ極メテ稀ナラン、故ニ本寄生蟲豫防トシテハ第一中間宿主撲滅ノ困難ナル以上ハ第二中間宿主タル淡水魚ノ生食ヲ禁ズルノ當ヲ得タルコトヲ論ゼリ。

(病理學教室岡部抄)

#### ○蛙蝌蚪(オタマジャクシ)尾部ニ於ケル

#### 再生ノ經過並ニ組織學補遺

(中央醫學會雜誌第三十三號)

愛知醫學士 長 松 英 一

著者ハ周到ナル用意ノ許ニ三種ノ身長ヲ有セル蛙蝌蚪各々廿四匹宛ヲ飼養シ、之ガ尾部ニ切斷手術ヲ施シ、種々ナル時間ノ經過後ニ來レル再生現象ノ組織學的檢鑿ヲ試ミタリ。切斷ノ後五時間目ニ於ケル所見ヨリ最終廿六日目ノモノニ到ルマデ、全部連續切片ヲ作り、各時期ニ應ズル變遷ノ狀態ヲ明ニシ、更ニ進ミテ其再生尾部ニ於ケル個々ノ組織或ハ臟器ニ生來セル再生現象ヲ綜合セリ。

即チ第一ニ再生現象ノ第一步ヲ成セル体表上皮組織ノ再生ヲ論ジ、手術後八日ニ於テ最モ旺盛ナル核間接分裂像ヲ觀、所謂エベルト氏裝置ノ増減ト下層上皮細胞ノ分裂増殖トハ明ニ相關連スル者ナリト說ケリ。結締組織ニ就キテハ之ヲ皮下、筋間、筋節中隔及中軸結締組織ノ四種ニ區別シ、切斷手術ニ際シ其影響ヲ受ケタル者ニ於テハ特ニ原形質ニ富有ナル所謂幼弱ノ狀態ニ於ケル結締組織細胞ノ再生ヲナシ更ニ各特定ノ部分ニ從テ特種ノ變遷ヲナスコトヲ論ジ、次ニ色素細胞ニ就テ記載シ脊髓神經節ノ再生ニツキテハバルフルト氏說ヲ以テ誤謬ナリト斷ジ、其他血管（切斷端ニ盲端擴張ヲナス、之レ營養供給ノ爲メニ起ル特異現象ナリトス而シテ血管亦他ノ再生ト共ニ延長スレモ一定時期迄ハ血管ノ再生延長ト隣接血管互々ノ間ニ於ケル吻合成立トガ併行セズ）背索（再生及延長ハ一ツニ背索上皮細胞ニ係ル可キモノナリ）及筋肉（再生中繁雜ナルモノナリ、筋ハ變性シ、平時ニ於テ幼弱ノ狀態ヲ保ツ筋纖維内ニ漸次筋ノ再生現象ヲ來スモノナリ、而シテ再生シタルモノハ舊筋纖維ニ比較スレバ其形態及配列ニ於テ同一ノ者ニ非ス）ノ再生現象ヲ細說セリ。（附圖八圖。）（病理學教室垂水抄）

## 細菌學

### ○抗體新生ニ及ボス電氣ノ影響

（日本微生物學會雜誌第五卷第六號）

醫學士 加 治 安 信

著者ハ免疫學上理化學的刺戟特ニ電氣ガ免疫体殊ニ溶血素、凝集素、及ビ沈降素ノ新生ニ際シ如何ナル影響ヲ與フルカノ主問題及ビ日光線並ニ遮光ノ之レニ及ボス影響如何ニ就テ研究セリ。

試驗方法ハ純白ナル家兎ヲ雌雄ニ分チテ用ヒ、其ノ体ニ感傳電氣ヲ通ジテ抗体ノ成立ヲ檢セリ。起抗體原トシテ溶血素ニハ山羊血球、凝集素ニハ「チブス菌」、沈降素ニハ山羊血清ヲ以テセリ。而シテ其ノ試驗成績ヲ綜合スレバ次ノ如シ。

- 一、溶血素ハ血球注射後約二日ニシテ現ハレ約一週間ノ後ニハ其最大強度ニ達シ其レヨリ一週ノ後次第ニ減弱ス。
- 二、凝集素ハ菌液注射後約二日ニシテ現ハレ約二週ノ後ニハ其最大強度ニ達シ其レヨリ二週ノ後次第ニ減弱ス。
- 三、沈降素ハ沈降原注射後約一週ニシテ出現シ其後二三



日ニシテ急速ニ最大強度ニ達シ其レヨリ約二週ノ後遽ニ減弱ス。

四、免疫體新生ハ家兎ニアリテハ雌性ノモノハ雄性ノモノヨリモ一般ニ旺盛ナリ。

五、暗黒ニ飼養セル家兎ニアリテハ通常ノ日光線中ニ置キタルモノニ比シ免疫體ノ新生一般ニ微弱ナリ。

六、電氣ハ一般ニ免疫體ノ新生ヲ抑制ス但シ溶血素及凝集素ノ新生ニ對シテハ其影響少ナキモ特ニ沈降素產生ニアリテハ其然ルヲ見ル。

抄者曰フ、斯クノ如キ問題ヲ決定スルトシテハ家兎ノ性質ハ個體ニヨリテ差異アリ、試驗動物ノ少ナキヲ遺憾トスルモノ也。(細菌學教室清水抄)

### ○枸橼酸加血液ノ喰菌促進作用ノ研究

(細菌學雜誌第二一六號)

大 谷 彬 亮

著者ハライト氏ノ「オプソニン」喰菌作用ガ健康者ト患者或ハ特種免疫ヲ施シタルモノノ間ニ著シキ相違ナキカノ疑点ヲ抱キ結核患、細菌性疾患ヲ有スル患者及健康者トニ就キ喰菌作用ヲ比較研究シ左ノ如キ結果ヲ得タリト言フ。

一、毒力強キ結核菌ヲ以テ一・五%枸橼酸曹達溶液(○・八五%ノ食鹽水ヲ以テ製ス)ニテ菌浮游液ヲ製シ之ト等量ノ新鮮血液ヲ混和シ喰菌現象ヲ檢スルニ健康者ノ血清ハ喰菌數甚小ニテ結核患者ニ於テハ喰菌現象著明ナリ。

二、二%枸橼酸ソーダ(○・八五%ノ食鹽含有)溶液○・一坵ト新鮮血液○・二坵ヲ混和シ血液ノ凝固ヲ阻止シ其二容量ト一・五%枸橼酸曹達溶液ヲ以テ製セル各種細菌浮游一容量ヲ混和シ喰菌作用ヲ檢スルニ喰菌促進作用ハ各特異性ナリ(但シ重症結核患者ノ血液ハ例外ナル事アリ)

三、結核菌ヲ以テ免疫セル家兎ノ枸橼酸加血漿モ亦結核菌ニ對シ喰菌促進作用ヲ有ス依テ前記枸橼酸加血液ノ喰菌現象ハ殊異免疫反應ノ一トシテ認ムルヲ得ベシ。

四、以上ノ喰菌現象ハ菌ノ毒力ニ關シ毒力強ケレバ喰菌促進作用著明ナリ。

五、食鹽水ヲ以テ洗滌セル白血球自己ノ喰菌能力ハ健康者及患者ノ間ニ差違ナク其運動モ枸橼酸曹達ノ影響ヲ蒙ル事兩者ノ間ニ區別ナシ依テ枸橼酸加血液ノ喰菌作用ノ兩者間ニ於ケル著明ノ相違アルハ兩者白血球ノ喰菌能力又ハ枸橼酸曹達ニ對スル抵抗力ニ差違アルニ

アラズ。

六、補體ハ枸櫞酸曹達溶液ノ影響ヲ蒙リ其ノ作用ヲ減弱ス而シテ枸櫞酸加血液喰菌現象ノ説明トシテ患者血液ニハ補體ヲ必要トセザル「トロンビン」存スルガ故又ハ喰菌雙攝體ヲ多量ニ含有スルガ故ニ少量ノ補體ヲ以テ著明ノ喰菌現象ヲ呈シ得ルモノト言フヲ得ズ而シテ血清ト血漿トハ喰菌現象ニ對シ異ナル作用アリ。

七、健康者及結核患者ノ枸櫞酸加血漿ニ就キ喰菌現象ヲ試験セルニ患者ニ於ケルモノ喰菌數強ク殊ニ各自ノ不洗滌白血球及ビ枸櫞酸加浮游液ヲ混和セルモノニ於テ兩者ノ喰菌數最モ大ナル差違ヲ示セリ然レドモ不洗滌ノ白血球ヲ以テ枸櫞酸加血液ノ喰菌現象ヲ説明スベカラズ。

八、總テ免疫ニヨリテ生ジタル喰菌作用ヲ促進スル物質ヲ免疫「オプソニン」ト總稱スレバ著者ガ枸櫞酸加血液ニ見タル物質モ亦免疫「オプソニン」ノ一種ナリ枸櫞酸曹達ヲ加ヘタル血液ノ喰菌現象ノ一部ハ少クトモ是等免疫物質ニヨリテ惹起セラルル事疑ヒナシ而シテ結核患者ニ就キ行ヘル實驗成績ニ徴スルニ斯ル物質ヲ全ク證明シ能ハザリシ場合又ハ辛ジテ甚ダ微量ヲ證明シタル場合ニ於テモ枸櫞酸加血液ノ喰菌現象ノミハ常ニ著

明ニ現ハレタリ以上ノ事實ヲ考フルニ結核患者血液中ニハ易熱性ノ免疫物質存在スルニアラザルカ

九、枸櫞酸加血液又ハ血漿ノ喰菌現象ハ「オプソニン」喰菌現象ト全然其意義ヲ異ニシ特異免疫反應トシテ臨床診斷ニ應用シ得ルモノナリ。(細菌學教室ニ抄ス)

#### ○膽汁培養基製造ニ膽汁粉末ノ應用

(細菌學雜誌二百六十二號)

豊田 秀造

佐藤 久三郎

「チブス」ノ早期診斷トシテ血中「チブス」菌ノ證明ニ用フ可キ膽汁培養基ハ邊陲ノ土地又火急ノ場合ニ得難ク且ツ攜帶ニ不便ナル等ノ欠陥アリ著者等ハ其ノ欠点ヲ補ハンガ爲メニ膽汁ヨリ粉末ヲ作り其ノ移植如何ヲ試ミタリ即新鮮ナル牛膽汁ヲ煮沸シテ濾過シ之ヲ重盪煎上ニ蒸發シ更ニ硫酸乾燥器内ニ於テ完全ニ乾燥セシメテ粉末ヲ作り此ノ粉末水溶液ニ「チブス」菌ヲ含有スル人血液又ハ家兔「チブス」菌血液ヲ移植シテ檢シタルニ好成績ヲ得タリト云フ。

(一)ノ異ニスル粉末膽汁培養基ニ人血液若クハ家兔血液ヲ混ジ之レニ「チブス」菌ヲ移植増菌セル成績ニヨレバ

膽汁粉末ノ含量ハ八%ノモノヲ最適當トス。

(二) 頗ル急ヲ要スル場合ニ於テ既成培地ノ貯ヘ無キ時ハ膽汁粉末〇・四瓦ニ五ノ沸騰水ヲ注加溶解シ更ニ少時間火焰ヲ以テ直接煮沸滅菌セルモノヲ代用シ得。

(三) コンラ―ヂ氏十%「ペプトン」及「グリセリン」加膽汁培養基及カイゼル氏純膽汁培養基ト該粉末膽汁培養基トノ比較検査ニ於テ何等逕庭ヲ見ズ。

(四) 膽汁其者ハ「チブス」菌ニ向テ適當ナル營養素ニ非ズ即チ菌ハ同時ニ加ヘタル多量ノ血液ニ由リテ營養セララルモノニシテ膽汁ハ單ニ血液ノ殺菌作用ヲ滅殺シ其ノ凝固ヲ妨止シ以テ菌ノ發育ヲ助長スルモノナラント説ケリ。(細菌學教室安仲抄)

### ○感作「ゴノワクチン」ノ臨床的實驗

(細菌學雜誌第二六二號)

高木 乙 熊

著者ハ北里研究所製造ニ係ル感作「ゴノワクチン」ヲ主トシテ婦人尿道淋及子宮淋患者七十八例ニ應用シテ左記ノ結果ヲ得タリ。

(一) 「ワクチン」治療ノ副作用トシテハ注射部ニ稍強キ發熱、腫脹、疼痛アリ全身障害及發熱ハ普通ノ使用量ニ

テハ障害ヲ訴フルモノ少シ又大量ニ注射スルモ敢テ顧慮スルニ及バス。

(二) 七十八名ノ婦人淋疾患者ニ感作「ゴノワクチン」ヲ應用シテ尿道淋ニ對シ七一・四%、子宮淋ニ對シ四三・三%、其他全部ノモノヲ合シテ平均五八・四%ノ著効ヲ得タリ。

(三) 多價感作「ゴノワクチン」ハ正ニ臨床家ノ應用スベキモノナリト信ズ。(細菌學教室堀木抄)

## 眼 科 學

### ○眼科ニ於ケル「レミヂン」ノ應用ニ就テ

(中央眼科醫報第九卷七號)

長谷川 俊明

著者ハ高橋博士創製ノ「レミヂン」ニ就テ、之レヲ諸種ノ肺炎菌性眼疾患ニ應用シ、其實驗ヲ報告セリ。而シテ氏ハ該藥ノ点眼、結膜下及前房内、又ハ硝子体内注射ニ依リ、如何ナル現象ヲ呈スルヤ、先ヅ家兎ニ就テ動物試驗ヲ行ヒシニ、点眼ニ在リテハ一時性充血ヲ起スニ過ギザリシモ、五%液ニ於テハ充血特長シ、輕度ノ角膜混濁ヲ呈シ二時間後消失セリ、結膜下注射モ点眼ト同様ナルモ、

稍刺戟強ク、前房注射ハ可成刺戟アリ角膜混濁ハ十二時後消退セリ、硝子体注射ハ刺戟強ク虹彩充血角膜及硝子体ニ混濁ヲ惹起セリ。

「レミヂン」ハ直ニ水ニ溶解セザルヲ以テ、少量ノ鹽酸ヲ加ヘ〇・五—一・〇—二・〇—五・〇％液ヲ作り濾過シテ褐色ニシテ透明ナル液ヲ使用セリ、(一・％液一〇〇・〇中稀鹽酸一・六ヲ含有ス)点眼後強キ灼熱感ヲ訴フルモ五分—十五分後消失ス、每一時間モ持續スルキハ翌日—翌々日ヨリ灼熱感消失ス、麻痺作用ハ輕度ニシテ、五・％液ヲ点眼スルキハ七分—十五分ニシテ僅ニ角膜ノ知覺鈍麻スルノミ、故ニ豫メ一・％「コカイン」液二三滴ヲ点眼スレバ、前記灼熱感ヲ緩解スルヲ得。

尙著者ハ諸種ノ肺炎菌性眼疾ノ分泌物ヨリ、細菌ノ培養試験ヲ行ヒ、該藥ヲ應用シ臨床上病疾ノ治癒ヲ認メタル後、更ニ培養試験ヲ試ミタルニ、十四例中一例ヲ除キ他ハ僅少ノ病原菌發育セリト、而シテ該藥ヲ應用セシ各眼疾ハ十七例ニシテ、其臨床上ノ實驗左ノ如シ。

一、急性結膜炎(肺炎菌性)七例中二例ヲ除キ他ハ悉ク五日—十日ニシテ輕快治癒シ、二例ハ一時症狀輕減シタルモ中途増悪シテ本藥ヲ中止セリ。

二、匍行性角膜潰瘍三例中一例ハ三日ヨリ著シク良候

ヲ呈シ二週ニシテ治癒シ、他ノ重キ二例中一ハ五六日ニシテ潰瘍ノ進行ヲ停止シ得タルモ、經過遲滯シ中途症狀増悪シテ失明シ、一ハ進行ヲ止メ得タルモ潰瘍廣延ナル爲明ヲ得ザリシ。

三、慢性淚囊炎三例ハ良効ヲ認メタリ、淚囊内注入ヲ毎日行フキハ、三日—五日ヨリ著シク膿漏ノ減退ヲ見タルモ、内二例ハ治後再發セリ。

四、全球炎一例ハ鞏膜ヲ切開排膿シ、該液ヲ硝子体内ニ注入シテ治癒セリ。

五、角膜單性潰瘍一例ハ良効果ヲ見タリ。

六、葡萄狀球菌性結膜炎二例、重桿菌性眼瞼緣炎一例ハ共ニ効果ナシ。

七、急性結膜炎ニ合併セル「フリクテイン」角膜「フリクテイン」ニ於テハ、原病ノ治癒ト共ニ治シ、一例ニ於テハ却テ増悪セリ。

以上ノ結果ニ依レハ、「レミヂン」療法ハ肺炎菌性眼疾患ニ對シ、少數例ニ於テハ効果ナカリシモ、大多數例ニ於テハ稍良効ヲ呈シ、或ハ異常ニ奏効シタルヲ以テ、正當ナル療法ト認ムルモ、重症匍行性潰瘍ニ對メ特効ノ認ムベキ者ナリ、淚囊膿漏ヲ容易ニ防止スルモ再發ノ恐アリ、培養試験ニ於テ容易ニ病菌ヲ滅殺シ得ザル憾アリ、而シ

テ毎時―毎二時点眼ヲ持長スル勞力多大ナレバ、從來ノ療法ニ比シ殊ニ優秀ナル者トシ、且ツ之レニノミ信賴スルヲ得ザル者トス。(眼科教室加藤抄)

## 皮膚科及泌尿器科學

○蕁麻疹樣濕疹ニ就テ

(Archiv für Dermatologie und Syphilis. Bd. CXXI. S. 1. 1915.)

ナ イ セ ル

著者ハ一九〇三年蕁麻疹樣濕疹ニ就イテ報道スルトコロアリシガ其後マルチノヰチ氏 Martinotti ガ急性滲出性浮腫 *Acutes exsudatives Ödem* ナル疾患ヲ報告セリ然ルニ著者ハ兩者ガ同一疾患タルコトヲ比較論究シ併セテ蕁麻疹ト皮膚ノ炎症トノ見解ヲ明記シ最後ニ蕁麻疹樣濕疹ノ臨床的一般症狀ヲ述ベタリ其ノ概要次ノ如シ。

一、蕁麻疹ハ血管運動神經ノ刺激ニヨリテ發生シ炎症ニ因スルモノナラズ全ク其ノ成立ヲ異ニスルモノニシテ恰モ軟性下疳ト微毒トガ合併シテ臨床的症狀ガ互ニ移行シ其ノ診斷ニ苦シムコト日常吾人ノヨク遭遇スルトコロナレドモ其本体ニ至リテハ全ク二病ニシテ且ツ全ク原因的關係ヲ異ニスルガ如シト。

二、本症ノ殊ニ特異トスルハ其皮疹ガ迅速ニ俄然發生シ濕潤セル著シキ腫脹ノ前驅症殆ンド見ザルニアリ。

三、本症ノ持續ハ多樣ニシテ時ニ八乃至十日間時ニ之レ以上ニ及ブコトアリ。

四、濕潤部位ノ附近ニハ濕潤ノ前驅症トシテ小ナル丘疹性水泡ヲ見ル尙顔面部ハ蕁麻疹樣濕疹ノ形ナルモ他ノ身体部分ハ眞正ナル濕疹ガ種々ノ形ニ於テ發生スルヲ見ル末期ニハ皮膚剝離ヲ來シ搔痒モ多少來ル。

五、發生部位ハ著者ノ例ニ於テハ顔面殊ニ眼瞼ニ來リ屢頭皮及陰囊ニ發生ス。

六、數例中ニハ常ニ同様ノ形ニ於テ再發シ其續發スル間ノ休息期ハ甚ダ變動多ク其一部ハ年餘ニ及ビシモノアリ。

七、本症ノ内外因殊ニ中毒性原因ニツキテ熱心ナル研究アルニ抱ラズ著者ハ尙一定ノ原因的關係ヲ決定スルニ至ラズ時ニ海鰻 *Hummer* ノ攝取後及ビ高度ノ精神感動後ニ發生セルモノアレドモ菜果攝取後ニ蕁麻疹ニ罹レルモノ最多ナリキ、著者ハ本症ヲ何物カノ中毒性原因ニ歸セシメントス著者ハ最近ニ「サルバルサン」療法後ニ顔面及ビ頭部ニ俄然著シキ浮腫ヲ合併シ全身ニ著シキ皮膚剝離及濕疹ヲ有スル一過性ノ皮膚炎ニ罹レル

ヲ見タリト。

八、本症特異ノ療法ナキモ一般乾燥塗布療法ヲ賞用ス即チ酸化亞鉛「グリスリン」滑石、水或ハ酒精ニ「イヒチオール」及ビ精製石炭「テール」ヲ加ヘテ塗布料トス、内用トシテハ「アトロピン」及ビ「エルゴチン」等ヲ與ヘテ良好ナルガ如シト。

### ○各種水銀劑ノ作用及ビ吸收ニ就イテ

(Archiv für Dermatologie und Syphilis. Bd. O XXI.S.330. 915.)

#### デーリンゲ

微毒療法ニ於テ「サルバルサン」ガ發見應用サレテ以來驅微療法ニ對スル研究モ大ニ其面目ヲ新ニセルガ近時ウエクゼルマン氏ハ「サルバルサン」單獨療法ヲ主張セリ著者ハ之レニ汞劑併用療法ガ本病治癒ニ向ツテ迅速ニシテ永續治癒ニ大ナル意義ヲ有スルコトヲ論ジ次イデ汞劑各種ニ就イテ其ノ化學的成立關係及ビ人体ニ及ボス其作用及ビ吸收狀態ヲ詳記セルガ其ノ作用及ビ吸收狀態ノ概要ヲ記セバ次ノ如シ。

一、各種汞劑ノ作用ハ單ニ水銀注射液ニ關スルノミナラズ殊ニ化學的及ビ生理化學的性状等ニ大ナル關係ヲ有スルヲ以テ爾今大ニ作用著シキ汞劑ノ研究ハ必要ナリ

ト。

二、不溶解性汞劑ノ一種タル「甘汞」ハ「スピロヘーテ」殺菌力最モ強ク「アルグラン」ハ之レト伯仲ノ間ニアリ第三位ハ「楊汞」ニシテ次イデ「メルチノール」ニシテ「コントラルエジン」最モ弱シト。

三、汞劑吸收量ノ定量法トシテハ「ブルギー氏法」或ハ「ファルプ氏法」ニヨリテ尿及ビ糞等ニヨリテ檢定サレ時ニX線像ニヨリテ其ノ吸收狀態ヲ觀測サレタリ。

最モ早く吸收サルルハ「楊汞」ニシテ「メルチノール」ハ最モ遅ク「甘汞」ハ兩者ノ中間ニ位シ「コントラルエジン」ハ「楊汞」ト匹敵ス。(以上二件、皮膚科教室花井抄)

### ○新潟縣下ニ發生セル毒蛾ノ研究

#### (第一回報告)

(皮膚科及泌尿器科雜誌第十七卷第七號)

大野 武 司

著者ハ一緒言トシテ本研究ヲナセシ動機ヲ述べ次デ(一)毒蛾ノ動物學的形態(二)毒蛾ニ因スル皮膚炎ノ一般の症狀(四)毒蛾ノ粉末ヲ以テセル人体試驗(五)毒蛾ノ粉末ヲ以テセル動物試驗等ノ項目ニ分リテ詳密ニ研究シ是ガ第一回報告トシテ發表セリ。

## 結 論

一、大正四年五年ノ初夏期ニ於テ新潟縣下ニ發生セル毒蛾ニ昆蟲學上「ユープロクチス、フラーフ」(Empoetis flava Bremer)ニ屬スルモノナリ。

二、本毒蛾ノ形態ハ大体ニ於テ蠶ノ蛾ト相似タルモ其「クローム」黃色ヲ呈セル点ニ於テ異ル且ツ本毒蛾ニ固有トスル所ハ其細鱗内一種獨特ノ針狀或ハ釘狀棘針ヲ顯微鏡下ニ認メ得ルコト是レナリ。

三、細鱗ノ附着ニヨリテ人体皮膚ニ發生セル發疹ハ蕁麻疹樣又ハ汗疹狀ヲ呈シ癢痒甚シク早キハ一週日遲キハ二週日ニシテ自然消滅ス但シ個人ニヨリテ其強弱アルベキモ且ツ是ニ由リテ免疫性ヲ得ル能ハザルガ如シ尙ホ人体ト雖モ手掌ノ如キ硬固ナル皮膚ヲ有スル部位ニ於テハ毫モ發疹ヲ認メザリキ動物ハ其多數ニ於テハ殆ド侵サレザルガ如キモ時ニ腹部等ノ皮膚軟弱ナル部位ニハ細鱗塗抹後發疹ノ發生ヲ見ルコトアリ。

四、發疹ノ組織的變化ハ蕁麻疹ノ夫レト大同小異ニシテ表皮細胞間及ビ眞皮上層内ニ漿液浸潤ヲ見細胞ハ爲ニ膨大シ間組織ハ展開セラル尙ホ毛細血管ノ充血淋巴腔ノ擴張及ビ管周圍ニ於ケル輕微ナル圓形細胞浸潤等ナリ。

五、本蛾ノ細鱗粉末ハ水ニ混和セズ「アルコール」、「エーテル」、「クロロホルム」、「クロロホルムエーテル」、血清等ニヨク混和スルモ溶解セズ但シ人体血清内ニ混和シ四日間三十七度ノ孵卵器内ニ放置セシ粉末ハ固有ノ毒性ヲ失ヒタルガ如シ。

六、皮膚發疹發生ニ直接關係アルモノハ長野氏ノ說ノ如ク本蛾獨特ノ微細ナル釘狀棘針ナルベシ而シテ皮膚發疹ハ此棘針自己ノ機械的刺戟ニヨリテ發生スベキモ主トシテ棘針中腔ノ淡紫色液狀透明体ノ化學的刺戟ニ因ルベシト信ズ。

七、体温血清内四日間混和セシメ置キタル粉末ヲ顯微鏡下ニ檢査セシニ棘針ノ外形ニハ毫モ變化ヲ見ザリシモ棘針中腔ノ淡紫色液狀透明体ハ著シク減少シ時ニハ之ヲ欠ケルモノアリタリ而シテ該粉末ハ實驗上無毒ニシテ皮膚發疹ヲ起ザリキ。(皮膚科教室吉田抄)

### ○奇異ナル膀胱異物

(日本泌尿器科學會雜誌第六卷第二號)

坂 口 勇

著者ハ膀胱ニ異物ノ侵入スルノ道ヲ次ノ如ク分類セリ。

一、尿道ヨリ入レルモノ。

A. 治療上ノ目的ニ尿道ヨリ治療器械等ヲ挿入セルモノ。

B. 性慾的關係ヨリ自己又ハ他人ヨリ種々ノ異物ヲ挿入シ異物トナルヲアリ。

二、膀胱壁ヨリ入レルモノ。

A. 外傷ニヨリ木片骨片彈丸等ノ入レルモノ。

B. 病的交通ニヨリ膈、直腸或ハ他組織ヨリ迷入セルモノ。

C. 膀胱壁自身ヨリ結紮絲ナド核トナリ異物ヲ作ルモノ。

三、上方ヨリ來ル腎石、腎組織片ノ如キモノ。

以上ノ如ク説明シテ著者ノ實驗セル稀有ナル二例ヲ報告セリ。

一、二十一歳ノ男子ニテ家庭ノヲヨリ精神病トナリ野仕事ニ出テタル一日手淫ヲナシ兼ネテ用意セル元結ヲ尿道ニ挿入シタルモ良好ナラズ遂ニ竹ノ新芽ヲ挿入シテ快感ヲ覺エシガ新芽ノ刺ニヨリ拔去スル能ハス其儘歸宅セルニ深部ニ入リテ不明トナリ出血著シキニヨリ二三ノ醫ヲ訪ネシモ治療拔去思ハシカラズ遂ニ著者ヲ訪ネ輸尿管「カテーテル」附膀胱鏡ヲ利用シ「カテーテル」ニ代フル細キ針金ヲ曲ゲテ遂ニ拔去シタリト。

二、四十六才ノ女三十年前左卵巢ニ發生セル皮膚樣囊腫ガ膀胱壁ニ癒著シ破壊シテ起レルモノヲシキ膀胱内ノ結石沈著シタル數個ノ毛髮ヲ實驗シ二回ノ手術ニヨリ取り出シタリト云フ。

### ○攝護腺肥大症ノ根治の手術ニ就テ

(日本泌尿器學會雜誌第六卷第二號)

縣立千葉病院泌尿器科主任

石 原 正 次

著者ハ攝護腺肥大症ノ根治の療治ハ觀血の療治以外ニ求メ得ザルヲ知り其所謂攝護腺剔出術中會陰式ニ比シ手術後ノ成績其他ニ大ナル利点アル恥骨上部攝護腺剔出術ニツキ次ノ如キ記載ヲナセリ。

本手術ハ泰西外科醫ノ多數ガ採用スルモノニテ先ヅ定型の膀胱高位切開ヲナシ膀胱内ニ達シ術者ノ指頭ヲ以テ所謂攝護腺被膜ト肥大性腫瘤トノ間ヲ鈍性ニ剝離ス次デ剝離セル腫瘤ト尿道トノ連絡ハ剪刀ヲ以テ離斷シ剔出ス(尿道トノ連絡ハ剝離ノ際既ニ離斷シテ剪刀ヲ要セザルヲアリ)剔出後ハ創腔ニ一時性「タンポン」又ハ溫湯灌注等ノ止血法ヲナシタル後其場合ニ應ジ或ハ持續性「カテーテル」ノ尿道挿入ヲナシ膀胱腹壁創ヲ全然閉鎖スルカ



又ハ攝護腺創腔ニ「ヨードホルガーゼタンボン」ヲ施シタル後下腹部切開口ヨリ膀胱内ニ大ナル「ドレーン」ヲ挿入シテ尿凝血ヲ導キ爾餘ノ創口ハ縫合ス即チ不全閉鎖ヲナシテ術ヲ終ルナリ後療法トシテハ毎日膀胱洗滌ヲナシ術時、膀胱ノ全閉鎖ヲナシ持續性「カテーテル」ヲ尿道ニ挿入シタルモノハ十日目後ニ之ヲ拔去シ又始メ下腹壁創ヨリ膀胱ニ「カーゼタンボン」及「ドレーン」ヲ挿入シ置ケルモノハ一兩日後ニ「タンボン」ヲ去リ數日後ニ「ドレーン」ヲ小ナル管ニ代エ十日目頃之ヲ拔去シ尿道ニ持續性「カテーテル」ヲ挿シ下腹創口ノ閉鎖ヲ待ツナリ、著者ノ實驗ニヨルニ本手術ニヨリ剔出セルモノハ攝護腺ニ發生セル一種ノ新發物ニテ腺ノ大部分ハ殘存シ所謂肥大部ノ腺内剔出術ヲナセルモノナリト。

本手術式ノ特徵トスル所ハ會陰式ニヨリ頻發スル直腸膀胱瘻及神經損傷ノ如キ全然欠除シ手術ノ正當シ行ハレタル時ニハ射精管精阜尿道膜樣部モ破壞サレザルガ故ニ陰萎尿失禁等ノ後遺障礙ヲ殘スヲナキニアリトスルモ稀レニ瘻孔形成尿失禁ヲ遺スヲナキニシモアラズト云フ。

著者ハ本症ノ患者四名（何レモ頑固ナル尿閉ヲ來シ姑息療治ノ煩ニ耐エザルモノ）ニ本手術ヲ施シ何レモ老年者（六十二歳—六十九歳）ナリシニモ關ラズ經過良好ニテ何

等後障礙ヲ遺サズ唯二例ニ手術後頑固ノ吃逆ヲ見タル爲メ手術部ノ安靜ヲ妨ゲ出血ヲ増シタリト云フ。

### ○特發性腎臟出血

（日本泌尿器科病學會雜誌第六卷第二號）

坂 口 勇

本症ノ原因ハ種々ナルベキモ多クハ間質性腎炎竈ヲ證スルモ蛋白圓柱ヲ見ザルヲ普通トスルモノナリ其療法モ區々ニテ血管收縮劑止血劑ノ多數ハ試ミラレ中ニハ奏効セルモノモアリ又血管病ノ徵ナルモノニハ「ドレーンブル」ノ血液注入五%ノ「プロペプトン」ノ靜脈内注入一〇%ノ食鹽水三乃至五或ハ異種動物血液四〇或ハ「デフテリ」血清ノ注入等モ試ミラレ奏効セル例モアリ又腎被膜切除術ヲナセル人モアリ本症ニ杉村博士土肥章司博士佐谷氏楠博士順天堂泌尿科及三戸氏等ハ「ワ」氏反應陽性ナリシ例ヲ報告シ「サルバルサン」「ネオサルワルサン」ヲ注入治癒セル人モアリ著者ハ血尿ノ外臨床上右腎ノ下端ヲ觸ルルノミノモノニ腎被膜切除（其以前ニ諸種ノ姑息療法ヲナス）ヲナシテ無効ニ終リ五%ノ「ユアグレン」「アドレナリン」麥角浸「スチブチン」「スチフトール」等ヲ用ヒシモ其効ナク萬一ヲ賴ミ「ワ」反應ヲ檢セルモ陰性ニ終レルモノニ生

理的食鹽水三〇〇一回、六〇〇、二回靜脈内注入ヲナセルニ運動乗車等ニヨルモ異常ナキ程トナリ半歳ノ後ニ至ルモ血尿ヲ見ザリキト。

### ○口腔淋ノ一例

(日本泌尿器病學會雜誌第六卷第二號)

西尾彌三郎

二十二歳ノ女子其夫ハ尿道淋アリテ患者モ亦感染セルモノノ如シ口腔ヲ以テ吸引スレバ効アリト云フ俗説ヲ信ジ患者ハ夫ニ對シテ此ヲ實施スルヲ七八日ニテ口腔ニ炎症症狀ヲ起シ固形物食温食ニヨリ熱感疼痛アリ味覺ヲ害シ唾液分泌増加シ運動障害ヲ來シ遂ニハ言語障礙嚥下困難ヲ來シ醫治ヲ乞フニ至ル當時食事不進全身倦怠三十八度二分ノ發熱、口腔粘膜ハ一般ニ發赤腫脹シ扁桃腺モ腫脹シ顎下腺ノ腫大疼痛アリ舌表面側面ニハ圓形ノ小豆大乃至帽針頭大ノ膿疱無數ニ竝列シ舌背後部ハ其數漸ク減少ス膿疱ハ帶黃褐色ニテ堅ク舌面ニ固著セル義膜ヲ以テ覆ハレ境界判然セズ軟硬口蓋扁桃腺ニハ膿疱ヲ見ズ舌阜ニ二三点上下口唇内面兩頬粘膜ニモ同様膿疱散在ス然レドモ舌背ノモノニ比スレバ僅ニ軟カク形狀不正ナリ膿疱相互ノ間隔ハ黃褐色汗穢ナル苔ヲ冠リ絶エズ膿汁樣分泌ヲ

漏ラス膿疱ハ容易ニ剝離セズ銳匙ニテ搔爬スレバ出血シ易シ口臭著シカラズ齒牙動搖ナシ口内灼熱感アリ生殖器ニハ膿子宮頸管バルトリー氏腺ノ炎症アリ膿液及含嗽液ヨリ細菌ノ顯微鏡及ビ培養試驗ヲナセルニ顯微鏡検査ハ明カニ淋菌ヲ認メタルモ培養ハ遂ニ不成功ニ終リタリト云フ。(以上四件、皮膚科教室田中抄)

### 婦人科及產科學

○人類羊水ノ化學的研究(第一回報告)

人類羊水ガ有スル物理學の性狀

及ビ化學の集成ニ就テ

(近畿婦人科學會々報第四號)

上野道成

分娩時人工破水ニヨリ殆ンド純粹ニ羊水ヲ採取シ、此レヲ綿紗次イデ吸引裝置ニテ濾過シ其ノ濾液ヲ實驗材料ニ使用セリ。

上記材料ヲ使用シテ著者ハ次記ノ諸項ニ就キ研究セリ。

イ、人類羊水ガ有スル物理學の性狀。

一、比重 二、氷点下降及ビ滲透壓 三、電導度 四、

水素「イオン」濃度 五、光學の検査

ロ、人類羊水ノ有スル無機性分。

一、羊水ノ有スル水分、固形分、灰分、及ビ有機成分ノ定量、二、羊水中ニ存在スル無機成分ノ定量。  
ハ、人類羊水中ニ存在スル右旋乳酸及ビ糖ニ就イテ。  
ニ、人類羊水中ニ存在スル「アルラントイン」及ビ有機性鹽基ニ就イテ。

ホ、人類羊水中ニ存スル蛋白質、尿素、尿酸「クレアチン」及ビ「ヒヨレアステリン」ニ就テ。

一、蛋白質 二、凝固性蛋白質ノ定量 三、尿素ノ定量並ニ窒素分布狀態 四、尿酸 五、「クレアチン」  
「クレアチニン」 六、馬尿酸 七、「ヒヨレアステリン」。

以上ノ研究ヲ總括シテ略次ノ如キ結果ヲ得タリ。

一、分娩時ニ採取セル婦人羊水ハ、其ノ比重平均一・〇〇六九ニシテ「ラクムス」試験紙ニ對シテハ中性又ハ弱「アルカリ」性ヲ呈スルモ水素「イオン」濃度ノ測定ニヨレバ常ニ弱「アルカリ」性ナリ。其ノ氷点下降度ハ平均攝氏〇・五〇四度ニシテ常ニ健康人体ノ血清ニ於ケルヨリ小ナルヲ以テ羊水ノ滲透壓ハ血清ノ滲透壓ニ比シテ常ニ低シ、而シテ氷点降下度ノ大サハ妊娠ノ時期ニ關係セザルガ如シ。

羊水ノ電導度モ亦殆ンド一定シ、略十分ノ一定規「ク

ロールカリウム」液ニ相等ス。

羊水ハ光學上殆ンド全ク非能働ナリ。

二、羊水ハ平均一・二三九%ノ固形分ト〇・八〇八%ノ灰分トヲ含有ス、灰分ハ常ニ「クロール」炭酸、硫酸、磷酸「ナトリウム」「カリウム」「カルチウム」「マグネジウム」及ビ鐵ヲ含有ス、其ノ主ナルモノハ食鹽ニシテ灰分ノ七五・七%ヲ占ム「マグネジウム」ニ至リテハ痕跡ニ過ギズ、而シテ食鹽ノ量ハ妊娠ノ時期ニヨリテ増減スルコトナシ、羊水ハ極メテ少量ノ「エーテル硫酸」ヲ含有ス。

三、羊水ハ常ニ蛋白質ヲ含有ス、凝固性蛋白質ノ量ハ〇・二二六%ニシテ、其ノ主ナルモノハ「アルブミン」ナリ「グロブリン」ハ只一小部分ヲ占ムルニ過ギズ、蛋白質ノ量モ亦妊娠ノ時期ニヨリテ變化スル事ナキガ如シ。「ムチン」モ亦常ニ少量含有ス。

四、無窒素性有機物質中、其存在ヲ確證セラレシモノハ右旋乳酸及「ヒヨレステリン」ニシテ前者ノ量ハ平均〇・〇七二六%ニシテ羊水成分中ノ主要ナルモノニ屬ス。

五、羊水ハ又常ニ尿素及「アンモニヤ」ヲ含有ス、尿素ノ量ハ平均〇・〇三二%ニシテ、含窒素性有機物質中最モ主要ナルモノニ屬シ、實ニ蛋白質ヲ除キタル殘餘窒素

量ノ約二分ノ一ヲ占メ、健康血液ノ尿素量ト大差ナキ  
ガ如シ。其ノ他「ヒスチチン」「リジン」「アラントイン」  
「クレアチン」(Histidin, Lysin, Allantoin, Kreatin) 及  
ビ尿酸モ確ニ存在スト雖モ其ノ量極メテ少ク、尿酸ヲ  
除クノ外ハ殆ンド痕跡ニ過ギズ。

六、「モノアミノ酸」「プリン鹽基」「ヒヨリン」(Cholin)  
「クレアチニン」「ペプトリン」「アルブモーゼ」馬尿酸、  
糖分等ニ至リテハ其ノ存在ヲ證明スルコト能ハズ。

### ○人類羊水ノ化學的研究(第二報告)

産婦ガ内服セル二三ノ藥物ノ羊水

中ニ移行スルコトニ就テ

(近畿婦人科學會々報第四號)

上野道故

著者ハ分娩時産婦ニ沃度加里(〇・五乃至一・〇ヲ丸劑トシ  
テ一乃至二回ニ)臭素加里(二・〇—四・〇ヲ一乃至二回ニ)  
「ザルチール」酸(二・〇)及ビ炭酸「リチウム」等ヲ内服セ  
シメ種々ノ時間經過後人工破水ニヨリ羊水ヲ採取シ此等  
藥品ノ羊水中ニ移行セシヤ否ヤニ就キ研究シテ次ノ如ク  
結論セリ。

一、分娩開始後内服セル沃度加里ハ常ニ羊水ニ移行ス、

著者ノ沃度加里ニ關スル實驗成績ハ「Krukenberg氏及  
ビHaidlen氏ノ成績ト全ク一致セリ。

二、分娩時ニ内服セル臭素加里モ常ニ羊水中ニ移行ス。

三、分娩時ニ内服セル「ザルチール酸」ハ全ク羊水ニ移行  
セズ然レモ Runge 氏ガ實驗セルガ如ク妊娠中ヨリ分

娩時ニ亘リ大量ノ「ザリチール酸」ヲ連用スル場合ニハ  
羊水ニ移行スル事アルヤ、今茲ニ斷言スル事能ハズ。

四、分娩時ニ「炭酸リチウム」ヲ内服セシムルモ火焰反應  
ニヨリテ之レヲ羊水中ニ證明スルコト能ハズ。

五、沃度及臭素ハ母体ノ血中ヨリ直ニ羊水中ニ移行スル  
モノナルヤ、或ハ先ヅ胎兒ノ血中ニ入り次デ其ノ腎臟  
ヨリ尿ト共ニ羊水中ニ排泄セラルルモノナルヤ、或ハ  
羊膜上皮細胞ノ分泌作用ニヨリテ羊水中ニ入ルモノナ  
ルヤ、此等ノ疑問ハ他日ノ研究ヲ待ツニアラザレバ解  
決スル事能ハズ。

### ○人類羊水ノ化學研究(第四報告)

人類羊水中ニ存スル酵素ニ就テ

(近畿婦人科學會々報第四號)

上野道故

著者ハ次ノ諸酵素等ガ人類羊水中ニ存在スルヤ否ヤニツ

キ研究セリ。

一、「デアスターゼ」二、「インヴェルターゼ」三、「ヌルターゼ」四、「グリコーゼ」五、「ブチルエーテル」分解酵素、六、「レチチン」分解酵素、七、「リバーゼ」八、「サリチン」分解酵素、九、「ウレアーゼ」十、「グリココル」十一、「ペプシン」十二、「トリプシン」而シテ次ノ如ク結論セリ。

一、羊水ハ常ニ「デアスターゼ」及ビ「ペプシン」ヲ含有ス。  
二、「インヴェルターゼ」ハ六例中一例ニ於テ「マルターゼ」ハ五例中二例ニ於テ「ウレアーゼ」ハ六例中一例ニ於テ其ノ存在ヲ證明セリ。

三、「グリコリーゼ」酵素、「ブチルエーテル」分解酵素、「レチチン」分解酵素、「リバーゼ」「サリチン」分解酵素、「グリココル」分解酵素等ハ羊水中ニ存在セス。

### ○黄体ヲ除去セシ卵巢越幾斯及黄体

越幾斯ノ作用ニ就テ

(近畿婦人科學會々報第四號)

井 岡 忠 雄

牛ノ卵巢ヲ清潔ニ採取シ約三分間「クロロホルム」ニ浸シ、タル後滅菌溜水ニテ充分洗滌シ滅菌鑷子ヲ以テ黄体

ヲ卵巢ヨリ剔出シ之レヲ滅菌剪刀ニテ小片トシ次イデ乳体中ニ碎磨シ之レニ黄体重量ノ五倍量ノ滅菌生理的食鹽水ヲ加ヘ、攪拌シ二十四時間氷室中ニ靜置シタル後其ノ上澄液ヲ遠心器ニテ處置シ黃褐色半透明ノ上層液ヲ得著者ハ之レヲ黄体越幾ト命名ス。

黄体ヲ除去セル卵巢モ黄体ト同様ニ處置シテ卵巢越幾斯ヲ得。尙同一方法ニテ肝臟越幾斯ヲ製成シテ之レヲ對照ニ用ヒタリ。

種々ナル年齡ノ体重略同一ナル同腹家兔ヲ試驗動物トシ之レニ前記ノ諸種越幾斯ノ一定量ヲ毎日及ビ隔日ニ其ノ背部皮下ニ注射シ一定日後之レヲ屠殺シ其ノ卵巢、腦下垂體、子宮等ノ臟器ニ就キ病理學的ニ研究シ次ノ如ク結論セリ。

一、家兔ニ牛黄体越幾斯或ハ卵巢越幾斯ヲ注射スル時ハ被注射動物ノ子宮、卵巢及ビ腦下垂體ニ一定ノ變化ヲ來ス。而シテ動物ノ年齡ニヨリ其ノ變化ニ大差アリ。

二、黄体越幾斯注射ニヨル子宮ノ變化ハ其ノ懷孕動物ノ極メテ初期ニ於ケル子宮ニ見ル變化ト同一ナリ。

三、黄体越幾斯注射ニヨル卵巢ノ變化ハ人類等ニ於ケル妊娠時ノ卵巢ノ變化ト同一ニシテ、濾胞ノ發育ヲ妨ゲザルモ其ノ成熟ヲ抑制ス、而シテ其ノ變化ハ腦下垂體

機能亢進ニ因ル變化ト同一ナリ。

四、黄体越幾斯注射ニヨリ腦下垂体ハ常ニ定型性變化ヲ示ス。而シテ其ノ變化ハ妊娠時ノ腦下垂体ノ變化ト同一ナリ。黄体越幾斯ヲ注射セシ際ノ卵巢ノ變化ハ腦下垂体ノ機能昂進ニヨリ變化ト同一ナルヲ以テ、黄体越幾斯注射ニヨリ腦下垂体ノ變化ハ其ノ機能昂進ニ基ク變化ナリト斷定セザルヲ得ズ。從テ妊娠時ノ腦下垂体ノ變化モ同様ナリ。

五、卵巢越幾斯ノ注射ニヨリ子宮ノ變化ハ黄体越幾斯ノ注射ニヨリ子宮ノ變化ト同一ナルモ其ノ程度常ニ弱クシテ寧ロ交尾期ニ於ケル子宮ノ變化ニ同ジ。

六、卵巢越幾斯注射ニヨリ卵巢ノ變化ハ此臓器ノ機能昂進ト見做ス可キモノナリ。

七、卵巢越幾斯注射ニヨリ腦下垂体ノ變化モ亦常ニ定型性ニシテ此臓器ノ機能减退セリト見做スベキモノナリ。

八、黄体ヲ有セザル卵巢ト腦下垂体トハ互ニ抑制スル作用ヲ有ス。

九、黄体ハ排卵ヲ調節シ月經ヲ周期的ニ出現セシムル作用ヲ有スルモノノ如シ。

## ○初生兒初尿ノ化學的研究補遺

(近畿婦人科學會々報第四號)

上野道故

卅二例ニツキ研究セリ成績大略左ノ如シ。

一、着色及ビ量、初尿ハ殆ンド無色、又ハ淡黃色ニシテ稀ニ著明ナル黃色ヲ呈シ、常ニ透明ナリ。其ノ着色ノ程度ハ分娩期間、特ニ第二期ノ延長スルニ從ツテ増加スルガ如ク、其ノ量ニ關シテハ今茲ニ正確ナル數ヲ擧グル能ハザレモ約二〇〇c.c.ノ間ヲ往來シ、多クハ五乃至一〇〇c.c.ニシテ一五c.c.ヲ越ルコト稀ナリ。

二、反應、多クハ中性ナリ、弱酸性ハ少ク、弱「アルカリ」性ハ甚ダ稀ナリ。

三、比重、最大一・〇〇八七、最小一・〇〇二五、平均一・〇〇四二。

四、氷点下降度、最大〇・四四度、最小〇・一八度、平均〇・二七六度。

五、蛋白質。多クハ陰性ナリ、二十四例中二十一例ハ陰性、三例ハ陽性ナルモ、其ノ内分娩經過中熱發セル一例ニ於テノミ著明ナリキ、其ノ他ノ二例ニ在リテハ全ク痕跡ニ過ギズ。著者ノ實驗ニテハ蛋白質ノ存否ハ分娩經過ノ長短ト一定ノ關係アル事ナシ。

## 雜 報

六、「クロール」含有量。平均〇・一七三八%此レヲ食鹽ニ換算スレバ平均〇・二八七一%ニシテ Dohn, Salpazas 等ノ成績ト稍趣ヲ異ニス。

七、「アムモニヤ」含有量。平均〇・〇一二八%ナリ。

八、尿素含有量。平均〇・〇六六九%、著者ノ數ハ Salpazas ノ成績ニ近似スレド Dohn, Hofmeier 等ノ報告セルモノトハ著シキ懸隔アリ、斯ノ如キ著シキ差異ヲ呈スル所以ノモノハ蓋シ前記諸氏ノ定量法ノ不正確ナリシガ爲ナラントイヘリ。

九、無機燐酸。五例ノ實驗中三例ニ於テハ全ク存在セズ一例ニ於テ痕跡ヲ證明シ他ノ一例ニ於テハ  $\text{P}_2\text{H}_5 = 0.11$  %ヲ檢出セリ、燐酸ハ短時間ニ經過セル普通分娩ノ際ニハ殆ンド全ク初尿中ニ缺除スルモノニアラザルカ。

十、顔面位死産ノ一例ニ於テハ、比重稍々大ニシテ、蛋白質ヲ含有シ、其ノ氷点ハ著シク低ク、「クロール」量モ亦之レニ比例シテ頗ル大ナリ。換言スレバ普通分娩ニ於ケルヨリハ著シク食鹽其ノ他ノ鹽類ニ富ミ、且ツ蛋白質ヲ含有ス。

(以上五件、婦人科教室波々伯部抄)

●死屍死胎解剖並保存ニ關スル取締規則 去月十二日警視廳令第十一號を以テ死屍死胎並に保存に關する取締規則左の通り定められたり。

第一條 死屍(全部又ハ一部以下之ニ同ジ)又ハ死胎(全部又ハ一部以下之ニ同ジ)ヲ解剖シ又ハ保存セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ死者ノ遺言書若クハ親族(死胎ニ在リテハ親族トナルベカリシ者)ノ承諾書(遺言書承諾書ナキモノハ其事由ヲ願書ニ記載スルコト)及醫師ノ診斷書若ハ檢案書ヲ添付シ所轄警察官署(島地ニ在リテハ警察官吏以下之ニ同ジ)ニ願出テ許可ヲ受クベシ

一、出願者ノ族籍、住所、職業、氏名、生年月日及死者トノ續柄

二、死者ノ族籍、住所、職業、氏名、生年月日、男女別、死亡ノ場所及年月日時(死胎ニアリテハ產婦ノ族籍、住所、職業、氏名、生年月日、分娩シタル場所、年月日時及死胎ノ男女別)

三、解剖又ハ保存セムトスル事由及解剖ニ在リテハ其ノ部位及剖檢スル醫師ノ住所氏名

四、解剖又ハ保存ニ著手スル年月日時場所及保存ニ在リテハ其ノ方法、前項ノ診斷書、檢案書ハ其ノ死胎ニ關スルモノニ限り、產婆ノ死産證書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二條 未成年者禁治產者ノ願書及承諾書ニハ法定代理人、準禁治產者ニ在リテハ保佐人ノ連署ヲ要ス

第三條 第一條第一項ニ依リ承諾ヲ爲スベキ親族ノ順位左ノ如シ

第一 法定推定家督相續人

第二 配偶者

第三 其ノ家ニ在ル父、父ナキトキハ母

第四 戸主

第五 第三號以外ノ直系尊屬

第六 其他ノ親族

前項第五又ハ第六ニ該當スル者ノ間ニ於テハ其ノ親等ノ近キ者同一親等間ニ在リテハ男子ヲ先ニス

前項ニ掲ゲタル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第四條 死屍又ハ死胎ハ死後若ハ分娩後二十四時間ヲ經過スルニ非ザレバ解剖又ハ保存ニ著手スルコトヲ得ズ、但シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラズ

第五條 醫師解剖ヲ終リタルトキハ縫理シテ原形ニ復スベシ、但シ原形ニ復スルコト能ハザルトキハ適當ノ措置ヲ爲スベシ

第七條 死屍又ハ死胎ヲ保存スル場所、方法ヲ變更シ又ハ保存ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ變更ノ場所方法又ハ廢止後ニ於ケル措置ヲ記載シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケベシ

第八條 死屍又ハ死胎ノ解剖若ハ保存ノ場所ニ警察官吏又ハ警察醫務ニ從事スル吏員ノ臨檢アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第九條 本令ニ依リ願出ニシテハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ許可セズ

- 一、死屍又ハ死胎ヲ保存スルノ必要ナシト認メタルトキ
- 二、公安、若ハ風俗ヲ害シ又ハ衛生上危害ヲ生ズルノ虞アリト認メタルトキ

既ニ許可ヲ受ケタルモノト雖前項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ監視廳ハ許可ヲ取消スコトアルベシ

第十條 本令第四條乃至第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則本令ハ大正六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●石川縣醫師分布狀態 縣下各郡に於ける現在の開業醫數は五百五十三名(内限地開業醫五名)なるが其分布は金澤市一二三、江沼三二、能美七

七、石川七八、河北五二、羽咋四八、鹿島六五、鳳至五六、珠洲二二にして各郡中醫師の全く現住せざる村數を合算すれば六十二村に達し中約二十ヶ村は醫師の出張所を有し或組合にては月手當參拾圓を供し又は年額參百六拾圓を支出して同村に住居せしめ又無料診察をなさしむる條件を附するものありと云ふ。

●第九師管軍醫分團總會 同總會は七月二十一日午前八時より金澤市偕行社に於て開催せられ午前中は團員の講演あり正午休憩、衛生材料を縦覽し午後一時より再開、高橋分團長の開會の辭、橋本師團長の告辭、團長の謝辭あり、次で會務の報告、來賓の特別講演ありて閉會、引續き別室に於て種々の餘興ありて六時開宴甚だ盛會なりき。

團員講演 (午前八時より)

- 一、鎖骨骨折ニ就テ 陸軍二等軍醫 矢部 與右衛門
- 一、眼球後退運動症ノ一例 同 北川 文松
- 一、未定 陸軍一等軍醫 青 柳 彰
- 一、二、三遊離組織移植の手術例ニ就テ 同 松 井 壽次
- 一、膀胱結石ノ一例(附)患者供覽 陸軍二等軍醫 田中 一次郎
- 一、縱隔膜腔腫瘍ノ一例 陸軍一等軍醫 酒 井 修 白
- 一、特發脫疽ノ患者供覽 陸軍一等軍醫 高桑 勇次郎



一、左側率丸腹壁脱轉ノ一例 同人

一、氣管並咽頭食道ノ異物ニ就テ

陸軍三等軍醫正 窪野 示

特別講演 (午後一時半より)

一、免疫反應ニ就テ

醫學博士 兒玉豐治郎

一、「バラチアス」ニ就テ

同人

一、腎臓炎ニ關スル一、二ノ學說ト其實際

醫學博士 田村 昌

一、歐洲交戰諸國ニ於ケル軍事上ノ雜件

陸軍歩兵中佐 中村 稻彦

一、膝蓋骨折ニ就テ

醫學博士 下平 用彩

●衛生會總會 大日本私立衛生會石川縣支會總會は七月廿五日午前十二時より石川郡松任町なる郡公會堂に於て開會せられたり、定刻に至り一同着席するや山上衛生課長は開會の辭を述べ次で會頭土岐縣知事は式辭に併せて同會の明治三十七年七月設立以來の經過より延いて現時歐洲戰亂の實況に鑑み將來健全なる國民を養成せられんことを望む旨を陳じ、

次で幹事長兼副會頭松村警察部長は本會事業及會計報告を爲し、郡支部委員長小島郡長、縣會議員總代後藤與五郎、堀郡會議長、町村長總代田中松任町長、登谷郡醫師會會長、會員總代北川友次郎氏等の祝辭あり、

一時四十分閉式、更に午後一時三十分より衛生講話會に移り先づ松村警察部長は簡單なる挨拶を陳じ、左記の順序にて通俗講演ありたるが聴衆に多大なる感動を與へ、午後五時頃盛會裡に閉會し引續き懇親會を催せり、來會者は前記の外、佐伯、高安、下平、松原、中村、土肥の各醫學博士、西村代議士、其他上田櫻木病院長、郡市醫師會員等數十名にして一般會衆數百名に及び頗る盛況を呈したり。

一、人類ノ未來

醫學博士 松原 三郎

一、保健上ノ營養問題

醫學博士 佐伯 矩

一、外傷ト外科的疾患

醫學博士 下平 用彩

一、「トラホーム」撲滅策如何

醫學博士 高安 右人

一、主婦の衛生的義務

ドクトル 飯森益大郎

一、衛生イロハ歌留多

米村 吉太郎

●石川縣學校醫會 石川縣に於ける各郡市學校醫會の設立成りたるを以て亞て其代議員制に依れる縣學校醫會をも設立すべく七月二十八日午後一時より大手町乃木會堂に於て其設立協議會並に發會式舉行されたり、定刻起創委員並に各郡市の代表者全部出席するを俟ち議事の進行を圖る上に於て滿場一致を以て小林文泰氏を座長に推し會則を制定し然る後役員の選定に移りたるが選舉の繁を省き森川修氏の指名にて會長に米村吉太郎氏を幹事に高口保太郎、加藤慶三、佐川忠義の三氏を推す事となり異議なく滿場の拍手裡に米村新會長の就任挨拶ありたり次で同學校醫會の設立成りたるを以て茲に其發會式を舉行し引續き第一回總會を開催する事となり米村會長より開會の辭に併せて一場の演説あり、亞て高口保太郎氏より過般列席したる文部省に於ける全國學校衛生主事等會議の報告演説あり其の終るを俟つて左の協議事項五件に就き協議を行ひたり午後五時閉會せり。

一、生徒兒童の身体検査に於ける体格等級の標準を一定する事。

二、生徒兒童の出席獎勵として表彰する事の利害如何。

三、生徒兒童の旅行並に遠足は必ず豫め校醫の意見を徴する事。

四、校舍及び寄宿舎の建築に關しては必ず校醫の意見を徴する事。

五、尋常一、二學年兒童の着袴を廢止する事。

●北越北陸聯合醫學會 同會は來る九月三十日午前八時より新潟醫學事

門學校に於て、長谷川北越醫學會長を假會長に推し開催することに決定し、目下其準備中なるが當日は九州大學教授稻田博士を招聘しワイル氏病に關する特別講演を乞ふ筈なりと云ふ。

●養護法講習 石川縣が小學校女教員の爲めに、八月三日より九日迄、

金澤病院眼科教室に於て兒童の養護法に就ての講習を開催せり、講習課目及講師左記の如し。

一、耳鼻及咽喉ノ疾患ト教育トノ關係 宮田 部長

一、兒童皮膚疾患殊ニ傳染性皮膚病ニ對スル一般注意 土肥 部長

一、縣下ニ多發スル疾病ニ就テ 田村 部長

一、救急療法 田中 醫員

一、兒童ノ夏季衛生ニ就テ 佐伯 醫員

一、一般看護法 丹上看護婦長

●金澤皮膚科集談會第十八回例會 去八月十二日午後七時より大手町醫師會堂に於て開催あり午後十時閉會せり。

一、列序性母斑 森田 隼三氏

二、膀胱結石ノ數例 山田孝太郎氏

追加 澤田一郎、飯森益太郎、田中一太郎、關川敬次、

三、乳糜血尿ニ「アルザミノール」ヲ注射セル一例 山田孝太郎氏

四、汗孔角化症及慢性苔癬狀皰癬疹ノ症例追加 土肥章司氏

## 會 報

### ●立山登山

大正六年夏期休業を利用し我が遠足部は天下の名峰たる立山登山を企てたり。いでや其紀行の大略を記さん、

七月二十七日。 燦々たる明星を戴き東の空漸く白む頃笠に蓑蓑、草鞋が

けの旅装にて金澤停車場に集れる者松原博士を始めとして若林、加藤兩先

生近藤醫員、坂東、林、丹の本年卒業生宮田、今田、片岡、伊藤、岡田、平

野、西村、牛村、上出の在學生其他小池寫眞師等一行二十一名となれり。

五時四十五分の下り列車に乗じて金澤を發す。朝未だ早くして汽車の窓

より吹き入る風は涼味言はん方なし。森下、津幡を過ぎ俱利伽羅峠に差し

懸る、翠綠將に滴らんとする山又谷ありて我等をしてそるに源平兩氏鐮

を削りし昔を偲ばしむ。二つの隧道を過ぐれば展望頓に開くる所越中原野

なり。かくして石動、高岡も瞬く間に過ぎ奥羽山目前に迫る。空全く晴れ

て遙かに立山の雄姿を望むを得たり、午前七時半富山驛に着す。一行は是

より徐に徒行し始む、歩の進むに隨ひ太陽愈々中天に近づき暑氣益々加は

る、時に生憎熱氣を消散すべきほどの風も無ければ炎熱實に堪ふべからず。

我等は發汗劑を注射されたる如くシャツもズボンも汗を以て濡されたり。

幾度かの休憩と笠の恩恵にて日射病を起すことは辛らじて免れ正午近く

上瀧町に達す。一行一茶店に入りて晝食をすまし亦もや火の如く熱き砂道

を辿りて進む、上瀧町を出で間も無く常願寺川を渡る、是より常願寺川を

右に見て名も面白き死出の山、三途川と名づくる所を過ぎて午後四時頃無

事第一宿泊地たる芦峠寺村に達す。此地は富山市を去ること約六里立山の山麓にありて海拔二千尺に達す、立山登山者は大抵此處に一泊して準備を整ふ我等も此處にて金剛杖を求む、風呂に入り疲れたる足を休め互に愉快に談じ午後十時頃漸く寢に就けり。

七月二十八日。午前二時半一同蹶然跳ね起く、仰いで天空を望めば星光燦然たり一行意氣天を衝くが如し。三時過準備整ひ星の光をたよりに暗路を辿り行く、常願寺川の流聲を右に聞きつゝ進むこと約一里にして藤橋に達す藤橋は常願寺川の一支流たる稱名川に架せる釣橋なり、往昔藤夢を以て架けたりし故此名ありと藤橋を渡りて直ちに車道を分れて立山道に入る、先づ草生坂に登る坂甚だ急にして登るに従つて鼓動増加し呼吸急迫を感ず。しかも一行の元氣少しもひるむことなし、愈登れば愈急なり曰く材木板と直径五六寸より七八寸に至る多角形の柱状の岩石縦横に起伏し危険いはん方なし、この險阻も難なく攀ぢ登る、暫らくして窺ひ熊王權現の窟と云ふ。此處にて岩角に腰を掛け下界を望めば常願寺川の清流手に取るが如く見ゆ、涼風徐に吹き來りて心地よきこと限りなし、かくて斷截坂、山毛櫨坂の峻嶒なものこそせず攀ぢ登る。忽ち番大の吠ゆるを聞く、人家近くにあらんと勇氣を鼓して登り極むれば果して綠陰に女茶屋と名くる休息所あり、其店前に水一杯壹錢湯一杯壹錢五厘にて登山者の需に應ず、今まで通過し來りし艱難を思へば尙廉價ならんと評す。此處にてこの高價なる水又は湯を飲みて渴を醫し辨當の半ばを食ひ空しくなれる腹を充して再び前進す。假坂あり長からざれども頗る急なり、この坂は植物分布の一界線をなすと云ふ。之より下は常磐木多く之より上は落葉樹多し、之を登れば展望開け韃靼たる聲を聞く。案内者に尋ねれば有名な稱名が瀧の音なりと、間もなく路の左方に當りて玉瀧の九天より直下するを見る。越中人の稱して日本一と云ふも宜なりと思はる、往昔佐伯有頼卿はこの瀧

の音を美妙なる念佛の聲と伏し拜み給ひしよりこの名ありと云ふ。早乙女嶽の斷崖に懸るものにして中間奇巖に激し折れて二層となる、實に天下の壯觀なり。附近一帶鬱蒼たる老樹多く偶々鶯の聲を聞く、亦奇なり。是より急坂なく數町にして彌陀ヶ原の高原に達す雜草綠甌を敷きたる如く喬木を見ず、此高原の中央に弘法茶屋あり我等は此處に憩ひて晝飯を食ふ亦冷水を嚙ぐ、之より間もなく追分に至る。此處にて道三條に分る、我等は左方一ノ谷の嶮に向ふ、彌陀ヶ原の盡くる所道急に下りて一溪壑に入る。坂甚だ急にして一度跳れば杖も足も止まる所を知らず溪流脚下に轟く所二ノ谷とす、我等濛々たる清流を手に掬して飲む冷きこと氷の如し、皆曰く、かの茶屋に賣りし水に優ること數倍なりと。之より我等は屏障の如き絶壁を攀ぢざるべからず、鐵鎖數丈あり之により辛うじて登れば又谷あり之を一ノ谷と稱す。再び數丈の鐵鎖の助により斷崖を攀ぢて一大岩石の下に達す名けて獅子ヶ鼻と稱すこの巨岩は山腹より突出し恰も獅子の天を仰いで咆哮するに似たり。この鼻端より今通過し來りし一ノ谷の幽壑を瞰下せば神自ら戰く、暫時休憩の後再び元氣を鼓舞して基石坂を超えて小松原に出で稍暫らくして谷めきたる凹みに一面に雪横はれるあり、乃ち雪の上に坐し掘りて之を嚙む、齒に散りて冷きこと甚し、砂糖を之に和してアイスクリームを製造するものあり。之より數町にして鏡石に至る、尙進むこと約一里午後三時半室堂に着す。芦峠より室堂まで約八里皆元氣旺盛一人の落伍者なくかくも早く着きたるは壯快の極なり。かくて暫時休憩の後地獄谷を見物せんと欲す、數町にして二つの池あり、一を綠ヶ池と云ひ一を美久里ヶ池と云ふ。共に紺青の色を湛ゆ油の如く緩かにして其深さ測るべからず、蛟龍の潛むかと疑はる。此處にて既に亞硫酸瓦斯の臭氣あり、是より約二三町下れば即ち地獄谷なり周圍一里餘滿地悉く黃色或は鉛色を帯び中に大小無數の竇穴あり。或は韃靼として硫煙噴出し或は沸々轟々として熱

湯湧く。人をして覺せず戰慄せしむ。室堂に歸れば夕飯なり。食後附近を散步す、寒風骨髓に徹す。既にして將に太陽西山に沒せんとする際、西の空は深紅色に染まりて淨土山、雄山、別山、及び劔山の諸峰雲表に屹立す。この壯大なる晚景筆舌を以て形容する能はず、唯壯絶快絶を叫ぶのみ、日は次第に暮れ西天薄紅となり紫となる。偶い明月淨土山に懸り銀光皎々として云はん方なし。夜は次第に寒くなり終に堪に難くして室堂に入る、試みに寒暖計を見れば華氏十度なり、夜半の寒氣推して知るべし。室堂は間口五間奥行十間に餘る長屋にして其構造甚だ堅牢にして如何なる烈風といへども決して倒潰することを得ずと云ふ。此日室堂に宿泊する者百人餘皆藁蓆上に枕藉す。

七月二十九日。起床三時早速粥をすゝりて室堂を發す。本日彌々絶巔を極めんと意氣軒昇なり、雪溪を渉ること十町餘にして怪岩奇石の起伏せる急坂あり、亦之を登ること十町餘にして淨土山の絶頂に達す、時に午前五時半なりき。雲煙溟濛として尺寸を辨ぜず天地合休せるにあらずやと疑はしむ。此處に軍人靈碑あり、日露戰役に名譽ある戰死を遂げたるものを祀る、其忠魂この山と共に永久に朽ちざらるべし。是より峰を傳へて進む忽ち風起り雲霧襲來し千仞の谷に吹き飛ばされんかと思はる、寒冷肌を劈くが如く手足ともに將に凍らんす。かくて一ノ越に至り順次に二、三、四の越の峻路を超へて遂に五ノ越に至る。時に雲霧次第に散じ展望漸く開く、此より草鞋を脱ぎ登ること數十歩、絶頂に達す。時に午前七時半。今や我等は天に近づくこと九千八百七十尺杖を岩頭に立てて東を望めば朝日は雲を破りて數百千條の金光を放射す。偶々西方に當り燦然として美麗なる紅輪あらはれ其中に彷彿として神佛の像を出現する如し。之れ立山獨特の御來迎なり、其奇觀思はず快哉を叫びしむ。南方には御嶽、鎗ヶ嶽等の日本アルプス山系手に取るが如く横はり歴々として指点すべし。特に著はれた

るは淺間山の巍然として雲表に煙を吐けるにあり。尙眼を轉じ遙かに東南方を眺むれば忽ち一行の向へる空中に當りハ桑玲瓏たる富嶽の優姿分明に現はれたり。暫し啞然として天地の偉大を感歎す。次に北方を眺むれば越中の平野パノラマの如く美し。常願寺、神通、庄川の三大河は白布の長く敷けるが如く富山灣は鏡の如く水天彷彿たり西方白山は雲に鎖されて見る能はず。然れども極めて稀有なりと云はるゝ御來迎を見、白雲に蔽はれて見ぬこと多き富士山を望むことを得たり、嗚呼何の幸か之に過ぎん。我等一行此に縣社雄山神社に謹んで參拜して下山す、時に午前八時半なりき。下山途中雪溪あり、莫塵を敷いて滑走す、忽ち數十間を下ることを得たり、亦面白し。室堂に歸り空虚となりし腹を充てて直ちに立發し立山温泉に向ふ。昨日過ぎ來りし路を辿り鏡石に至り一ノ谷に向はすして左に折れ彌陀ヶ原に出て追分に至る、之より左折して温泉路を辿る、彌陀ヶ原の盡くる所一大嶺あり、松尾と云ふ坂極めて急にして且つ甚だ長く六十町餘もありと云ふ、名けて松尾坂と云ふ。我等は之を下るに膝關節の脱臼來さんかと憂へたる程なりき。之を登るは如何に難からん、或人曰く松尾坂を攀ちざるものは俱に天下の峻嶒を語るべからずと、かくて坂盡くる所湯川あり、常願寺川の上流なり。之を渡れば立山温泉なり、時に午後二時なりき。温泉に入浴して早く眠に就く。

七月三十日。午前四時温泉を發す半里許りにして湯川急に直下して白岩の瀧となる、水流岩石に激して飛沫驟雨の如し是より道平夷にして五里餘の里程忽ち通過し声嘶に着きは午前九時過なりき。此處にて互に健なりしことを祝ふ後一行二部に分れ各自歸途に就く、一部は大岩に向ひ他の一部は富山市に向ふ、皆其日の中に金澤に歸着せり。嗚呼僅かに四日間の遠足、如何に興味多かりしよ。如何に浩然の氣を養はれしことよ。我等は此旅行中の天氣至つて晴朗なりしことを天に謝してや

まざるなり。

●准特別會員

本校醫化學教室須藤博士の下に研究中の醫學士竹内慶治郎氏は今回十全會准特別會員として入會せられたり。

通信

●石原巖氏 (大正五年卒業)

(前略)降つて小生の近況申上候戀したる都を去つて故園の萬縁中に身を埋めて以來快々として心樂ます而も多忙靜思のいさま無き生活致し居り候然し不快の多きだけ失敗の多きだけ自からの爲めには貴き修養の一を存じ孜孜として勉強致し居り候當赤十字病院は院長副院長(學士)の外に醫員四名にて而も患者多きため其忙しさは類の無きものと言ふ可きか、晝食の如きは午後の三時頃となる事珍らしからず候。(中略)小生の當院に來りて間も無く一青年患者來りて其の症候上よりアメーバ赤痢の上に小生は疑を置きたるを以て便を檢索仕候ところ間違ひなくアメーバの活潑に運動するものを發見して當地方にては初めての由にて大に面白く感じ染色やら何やら種々研究仕候然し繁忙なる院務の傍になす事なれば思はしからず残念に御座候四日目に一度つゞ宿直有之候が時く患者の死にも會して「死」に就きて學ぶ所多き事も有之候當院は日曜の宿直には醫員は唯一人にて外來も入院も皆所置する事なれば内外科はもとより眼科、婦人科、耳鼻咽喉に至るまで一手に取受けて大車輪に御座候小生の如き初めて醫者をする者には少なからざる骨折にて日曜にも外來が三四十人入院が五十人位有之候、先日も大失敗をして院長に迷惑をかけたる如き事件も發生させ醫者のつらさが身な

通信 叙任及辭令

切らるゝばかりの事多く候それだけ又好經驗に有之候

人思の所をさげつして朽ち行くばかり情なき事は無之候再舉を期して故山に歸りし小生も次第に身に羈絆多きに苦しみ居り候。之れにて攔筆仕候

七月二十七日

鳥取市日本赤十字社支部病院

石原巖

叙任及辭令

●宮内省

(七月三十一日)

叙正六位

從六位 土肥章司

叙從六位

正七位 林篤

叙從六位

正七位 田村昌

叙從六位

正七位 兒玉豐治郎

●賞勳局

(七月二十五日)

叙勳六等授瑞寶章

從五位醫學博士 須藤憲三

叙勳六等授瑞寶章

從七位勳七等 山本兵三郎

●陸軍省

(八月六日)

第八師團軍醫部長陸軍一等軍醫正 村田 醇(二四)

免本職補第九師團軍醫部長

叙任及辭令

一六〇

任陸軍三等軍醫正 陸軍一等軍醫從六位勳五等 井上 隼雄 (三六)  
補步兵第七十三聯隊附  
任陸軍三等軍醫正 陸軍一等軍醫從六位勳五等 小原 德太郎 (三七)  
補步兵第四十四聯隊附兼高知衛戍病院長  
任陸軍三等軍醫正 陸軍一等軍醫從六位勳五等 山本 幹雄 (全上)  
高田衛戍病院附陸軍三等軍醫正 山本 幹雄  
免本職補步兵第七聯隊附  
任陸軍三等軍醫正 陸軍一等軍醫從六位勳四等 朝倉 重敏 (全上)  
陸軍三等軍醫正 朝倉 重敏  
臨時脚氣病調査會御用掛ヲ命ズ  
陸軍省醫務局課員陸軍三等軍醫正 朝倉 重敏  
免本職補近衛步兵第四聯隊附  
陸軍省醫務局御用掛ヲ命ズ  
陸軍一等軍醫從六位勳五等功五級 藤 浪 謙 (三五)  
任陸軍三等軍醫正  
待命被仰付  
任陸軍一等軍醫 陸軍二等軍醫從七位 平野 郷治郎 (四二)  
野砲兵第十七聯隊附陸軍一等軍醫 平野 郷治郎  
免本職補山砲兵第一大隊附  
任陸軍一等軍醫 陸軍二等軍醫從七位 高田 茂一 (全上)  
名古屋衛戍病院附陸軍一等軍醫 高田 茂一  
免本職補步兵第三十八聯隊附  
任陸軍一等軍醫 陸軍二等軍醫從七位 寺境 壽貞造 (全上)  
騎兵第二十六聯隊附陸軍一等軍醫 寺境 壽貞造  
免本職補騎兵第二十五聯隊附

任陸軍一等軍醫 陸軍二等軍醫從七位 伊藤 善次 (四二)  
岡山衛戍病院附陸軍一等軍醫 伊藤 善次  
免本職補工兵第十大隊附  
任陸軍一等軍醫 陸軍二等軍醫從七位 北村 一清 (全上)  
旅順衛戍病院附陸軍一等軍醫 北村 一清  
免本職補獨立守備步兵第四大隊附  
輜重兵第九大隊附陸軍二等軍醫 廣瀬 竹次郎 (四四)  
免本職朝鮮駐劄軍司令部附被仰付  
陸軍三等軍醫正八位 鶴來 政雄 (大正)  
同 森部 令次 (全上)  
同 千田 登 (全上)  
同 大橋 忠 (全上)  
同 小森 定司 (全上)  
任陸軍二等軍醫 步兵第六十聯隊附陸軍三等軍醫 森本 捨三 (大正)  
免本職補騎兵第二十六聯隊附  
●石川縣  
(八月一日)  
依願職務ヲ免ズ 金澤病院醫員 布施 宗一 (大正)  
金澤醫學專門學校醫學士 田中 清次 (大正)  
金澤病院醫員ヲ命ズ 十二級俸給與  
皮膚花柳病科勤務ヲ命ズ  
石川縣警察醫ニ任ズ 七級俸給與 殿町病院醫員ヲ命ズ  
警察部衛生課兼金澤警察署同新町分署勤務ヲ命ズ

## 人事

●村上庄太氏(前本校教授) 現北京醫事校教授たる同氏は昨年八月赴任

後尙家族は金澤市に在住なりしも今度家事の都合に依り郷里丸龜市に移住せらるゝこととなり、同氏は八月下旬北京へ歸任せられたり。

●布施宗一氏(大正二) 金澤病院皮膚科醫員として勤務中の氏は九月一日第二次勤務演習の爲め辭職の上宇都宮聯隊へ入隊せらる。

●鈴木外男氏(大正四) 卒業後直に渡臺、今回臺灣總督府醫官補に任ぜられ臺南醫院勤務を命ぜられたり。

●太田泰造氏(大正六) 大阪市東區北濱三丁目松岡外科病院へ赴任せらる。

●本郷 啓氏(全) 金澤市石屋小路佐々木診療所へ赴任せらる。

●毛利久五郎氏(全) 三重縣赤十字社病院へ就任せらる。

●野澤寛二氏(全) 富山市田上眼科病院に勤務の同氏は今回富山市千石

町布瀬屋方へ轉居せらる。

●土肥秀太郎氏(全) 富山市富山腦病院へ赴任せらる。

●中橋賢藏氏(全) 金澤市古寺町前田小兒科醫院へ就任せらる。

●岡島俊一氏(全) 金澤市彦三三番丁上田病院へ赴任せらる。

●河合眞治氏(全) 福井縣敦賀病院へ赴任せらる。

●磯野誠道氏(全) 岐阜市京町山田眼科院へ赴任せらる。

※ ※ ※ ※ ※

人事

## 廣告

### 講話大會

拜啓益々御清榮之段奉慶賀候陳者來る十一月第拾七回十全會講話大會開催可仕候間萬障御繰合せ御來會の上日頃の蘊蓄御披瀝被下度候

追而期日確定の上誌上廣告可致特に御招待狀は差出不申候故此儀御承知被下度候

會場 金澤醫學專門學校大講堂

演題申込期日

十月末日迄(醫化學教室宛)

演說時間(特別會員) 十五分間

大正六年八月

金澤醫學專門學校十全會講話部





第四目 消耗品費	七・三〇	*	一・九〇	五・四〇	五・五〇	
第五目 製本費	一〇・六〇	*	三・〇〇	七・四〇	七・五〇	
第六目 雜費	一・一〇	*	四・〇〇	七・〇〇	七・〇〇	
第七目 電燈費	四・〇七	*	二・五〇	三・八〇	三・五〇	三〇
第四項 ロンデニス部費	八・〇〇			八・〇〇	八・〇〇	
第一目 部費	六・五〇			六・五〇	六・五〇	
第二目 大會費	一五・〇〇	*	三・四〇	一四・六〇	一四・六〇	
第五項 劍道部	五・〇〇			五・〇〇	五・七〇	三〇
第一目 大會費	二七・〇〇	*	五・九〇	二一・四〇	一〇・七〇	三〇
第二目 獎勵費	二七・〇〇		一五・九〇	四・九〇	四・九〇	
第六項 柔道部	五・〇〇			五・〇〇	五・九七	三〇
第一目 大會費	二七・〇〇	*	三・九〇	二一・一〇	二一・〇〇	三〇
第二目 獎勵費	二七・〇〇		三・九〇	四・九〇	四・九〇	
第七項 弓術部	五・〇〇			五・〇〇	五・〇〇	
第一目 大會費	一五・〇〇	*	三・〇〇			
第二目 備品費	三・〇〇	*	七・一〇	一・八〇	一・八〇	
第三目 獎勵費	一七・〇〇		三・一〇	元一・一〇	元一・一〇	
第八項 野球部	一〇四・〇〇			一〇四・〇〇	一〇四・〇〇	
第一目 部費	八・〇〇		四・三〇	九・三〇	九・三〇	
第二目 大會費	一五・〇〇	*	四・三〇	一〇・六〇	一〇・六〇	
第九項 相撲部	九・五〇			九・五〇	九・九六	
第一目 部費	八・〇〇		五・七〇	八・五〇	八・五〇	
第二目 大會費	一五・〇〇	*	五・七〇	九・二〇	九・二〇	
第十項 遠足部	二〇・〇〇			二〇・〇〇	二〇・〇〇	

第一目 部費	二〇・〇〇		二〇・〇〇	二〇・〇〇	
第七項 會務費	三六・五〇		三六・五〇	三六・五〇	
第一目 教師囑託手當	一九・〇〇		一九・〇〇	一九・〇〇	
第二目 備品費	三〇・〇〇	*	一四・六〇	五・三八	
第三目 印刷費	五〇	*	五〇		
第四目 消耗品費	五・〇〇	*	三〇	四・七〇	
第五目 雜費	五・〇〇		一五・四〇	二〇・四〇	
第七項 學術實習部	九五・四〇		九五・四〇	六・六八	三・七〇
第一目 藥品材料費	六五・四〇		六五・四〇	四・七八	三・六〇
第二目 備品費	二〇・〇〇		二〇・〇〇	一七・九〇	二・一〇
第三目 雜費	一〇・〇〇		一〇・〇〇		二・〇〇
第三項 豫備費	八・三〇	*	六五	八〇・六五	八〇・六〇
第一目 豫備費	八・三〇	*	六五	八〇・六五	八〇・六〇

●大正五年度金澤醫學專門學校  
十全會臨時費支出決算表

科 目	原豫算額	流用増減額	豫算現額	支出済額	不足額
第一款 金澤醫學專門學校十全會臨時部	四〇・〇〇		四〇・〇〇	九・五〇	五・五〇
第一項 相撲小屋屋根葺上ヶ費	四〇・〇〇		四〇・〇〇	九・五〇	五・五〇
第一目 同上	四〇・〇〇		四〇・〇〇	九・五〇	五・五〇

●大正五年度十全會校外特別會員  
會費收支決算報告

大正五年度十全會校外特別會員會費收支決算ノ結果

本年度收入金額ハ

一、〇八六・四六〇

ナリ内

自大正六年度  
至大正十年度 會費前納金額

一七四・八〇〇

ヲ扣除殘金

九一一・六六〇

ハ本年度實收入金額ナリ

本年度支出濟額ハ

八八八・九九〇

ニシテ收入額ニ比シ

二二・六七〇

ノ剩餘ヲ生シタリ此ノ金額ハ會則第十六條ニヨリ資金ヘ組入スヘキモノ  
ナリ

資金ハ大日本帝國政府四分利公債証書額面參百圓並ニ金千拾四圓參拾四錢  
參厘ノ處創立二十五紀念館建設費ノ方ヘ寄附スヘキ決議ニ基キ四分利公  
債証書額面參百圓並ニ金九百七拾四圓四拾六錢五厘支出セリ依テ現在資金  
六拾貳圓五拾四錢八厘ニシテ内譯左ノ如シ

金參拾九圓八拾七錢八厘

前年度ヨリ繰越額

金貳拾貳圓六拾七錢

本年度剩餘金

依テ繰越現金貳百參拾七圓參拾四錢八厘ナリ

●大正五年度金澤醫學專門學校十全會  
校外特別會員會費收入決算表

科	目	豫算額	收入濟額	豫算額ニ比シ 收入濟額差 増減	備考
第一款	金澤醫學專門學 校十全會校外特 別會員會費	一一九・六〇〇	一〇六・四六〇	一二・一四〇	

第一項	校外特別會員 會費	九七・八〇〇	九七・八〇〇	六・六〇〇	內百四拾 六圓六拾 錢ハ本年 以前前納 ノモ
第二項	利 金	四・九〇〇	四・四六〇	九・四四〇	
第三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十一項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十二項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第十九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十一項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十二項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第二十九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十一項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十二項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第三十九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十一項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十二項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第四十九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十一項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十二項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第五十九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十一項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十二項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第六十九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十一項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十二項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第七十九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十一項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十二項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第八十九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十一項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十二項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十三項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十四項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十五項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十六項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十七項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十八項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第九十九項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	
第一百項	繰越 金	六・〇〇〇	三・八〇〇	九・四四〇	

●大正五年度金澤醫學專門學校十全會  
校外特別會員會費支出決算表

科	目	原豫算額	流用増減 額印ハ減	豫算現額	支出濟額	不用額
第一款	金澤醫學專門學 校十全會校外特 別會員會費	八九・六〇〇	—	八九・六〇〇	八八・九六〇	二・七四〇
第一項	會費	八三・三〇〇	六・五〇〇	八九・六〇〇	八八・九六〇	九・六四〇
第一目	雜 誌 費	六八・四〇〇	一八・九〇〇	六七・五〇〇	六五・三〇〇	—
第二目	通 信 費	一七・九〇〇	一八・九〇〇	九九・〇〇〇	九八・二〇〇	九・八〇〇
第一節	郵便電信	六・七〇〇	八・九七〇	五九・七九〇	五九・七九〇	—
第二節	在京囑託 員通信料	一〇・〇〇〇	九・九八〇	二〇	—	二〇
第三節	會費集金	元・三〇〇	—	元・三〇〇	元・三〇〇	—
第三目	雜 費	空・〇〇〇	六・五〇〇	二二・五〇〇	二二・五〇〇	—
第二項	豫 備 費	七〇・〇〇〇	六・五〇〇	一・七〇〇	—	一・七〇〇
第一目	豫 備 費	七〇・〇〇〇	六・五〇〇	一・七〇〇	—	一・七〇〇